

Oracle® iPlanet Web Server 7.0.9 リリース ノート

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 リリースノート	5
Web Server 7.0.9 の諸機能および拡張機能	5
SSL/TLS 脆弱性 CVE-2009-3555 の解消	6
JDT Java コンパイラのサポート	6
Oracle JRockit JDK のサポート	6
認証時のセッション ID の変更機能	6
大型アプリケーションの場合、add-webapp コマンドの --directory オプションを 非推奨とし、--file-on-server オプションを優先	7
Web Server 7.0.9 で解決された問題	7
ハードウェアとソフトウェアの要件	8
サポートされるプラットフォーム	8
システム仮想化のサポート	8
オペレーティングシステム用パッチ	9
サポートされているブラウザ	12
非推奨に関する注意点	12
インストール、移行、およびアップグレードに関する注意点	13
インストール	13
移行	14
アップグレード	14
既知の問題点	16
管理	16
コア	24
FastCGI	25
インストール	26
移行およびアップグレード	27
サンプルアプリケーション	31
検索	31
セキュリティ	31
セッションレプリケーション	32

Web コンテナ	33
ローカリゼーション	33
Sun Java Enterprise System	35
Web Server のドキュメント	37
Web Server のドキュメントセット	37
ドキュメント、サポート、およびトレーニング	39
Oracle 製品ドキュメントの検索	39
サードパーティー Web サイトの参照	39
Web Server の以前のリリースでの諸機能および拡張機能	40
7.0 Update 8 の諸機能および拡張機能	40
7.0 Update 7 の諸機能および拡張機能	41
Update 6 6 の諸機能および拡張機能	44
7.0 Update 5 の諸機能および拡張機能	44
7.0 Update 4 の諸機能および拡張機能	45
7.0 Update 3 の諸機能および拡張機能	46
7.0 Update 2 の諸機能および拡張機能	46
7.0 Update 1 の諸機能および拡張機能	49
7.0 の諸機能および拡張機能	51
Web Server の以前のリリースで解決済みの問題	59
7.0 Update 8 において解決済みの問題	59
7.0 Update 7 において解決済みの問題	59
7.0 Update 6 において解決済みの問題	61
7.0 Update において解決済みの問題	63
7.0 Update 4 において解決済みの問題	65
7.0 Update 3 において解決済みの問題	67
7.0 Update 2 において解決済みの問題	75
7.0 Update 1 において解決済みの問題	77

Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 リリース ノート

この『リリースノート』ドキュメントには、Oracle iPlanet Web Server (Web Server) の 7.0.9 リリースに関する重要な情報が記載されています。このドキュメントでは、新機能や拡張機能、インストール時の注意点、既知の問題、およびその他の最新の問題を扱っています。Web Server 7.0.9 をお使いになる前に、このドキュメントをお読みください。

このリリースノートには、次の内容が含まれています。

- 5 ページの「Web Server 7.0.9 の諸機能および拡張機能」
- 7 ページの「Web Server 7.0.9 で解決された問題」
- 8 ページの「ハードウェアとソフトウェアの要件」
- 13 ページの「インストール、移行、およびアップグレードに関する注意点」
- 16 ページの「既知の問題点」
- 37 ページの「Web Server のドキュメント」
- 40 ページの「Web Server の以前のリリースでの諸機能および拡張機能」
- 59 ページの「Web Server の以前のリリースで解決済みの問題」

Web Server 7.0.9 の諸機能および拡張機能

Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 は、Sun Java System Web Server の更新リリースです。7.0. Web Server 7.0.9 では、Web Server 7.0 および Update 1 から 8 の諸機能および拡張機能以外に、次の諸機能および追加機能が製品に追加されます。

- 6 ページの「SSL/TLS 脆弱性 CVE-2009-3555 の解消」
- 6 ページの「JDT Java コンパイラのサポート」
- 6 ページの「Oracle JRockit JDK のサポート」
- 6 ページの「認証時のセッション ID の変更機能」
- 7 ページの「大型アプリケーションの場合、add-webapp コマンドの --directory オプションを非推奨とし、--file-on-server オプションを優先」

SSL/TLS 脆弱性 CVE-2009-3555 の解消

Web Server 7.0 Update 7 には NSS 3.12.5 が含まれていましたが、これは SSL/TLS 再ネゴシエーション脆弱性 [CVE-2009-3555](#) を軽減しましたが、解消するまでには至りませんでした。さらに、Web Server 7.0 Update 7 では、Web Server を攻撃から保護するために、SSL/TLS 再ネゴシエーションをすべて無効にしていました。クライアントまたは Web Server のどちらかが既存の SSL/TLS セッションで再ネゴシエーションをトリガーしようとする、接続は失敗しました。

Web Server 7.0.9 には NSS 3.12.6 が含まれており、これが安全な SSL/TLS 再ネゴシエーションを実現し、[CVE-2009-3555](#) を解消します。この結果、Web Server 7.0.9 では SSL/TLS 再ネゴシエーションを再び使用できるようになります。

JDT Java コンパイラのサポート

Ant や他の Java コンパイラではなく Eclipse JDT Java コンパイラを使用するように Web Server を設定できるようになりました。詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Developer's Guide to Java Web Applications](#)』の「[Using the Eclipse JDT Java Compiler](#)」を参照してください。

Oracle JRockit JDK のサポート

Web Server は、サポート対象の 32 ビットプラットフォームで、Oracle JRockit JDK をサポートするようになりました。7.0.9 リリースの場合、JRockit JDK バージョンの最低条件は R27.6.5 です。このバージョンは Java SE 6 Update 14 (1.6.0_14) と互換性があることが確認されています。

認証時のセッション ID の変更機能

Web Server 7.0.9 は、`changeSessionIdOnAuthentication` プロパティを、`sun-web.xml` ファイルの `sun-web-app` 要素に追加します。このプロパティは、セッション固定攻撃を回避するために、認証時に Web アプリケーションがセッション ID を変更できるようにします。詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Developer's Guide to Java Web Applications](#)』の「[sun-web-app Element](#)」を参照してください。

大型アプリケーションの場合、add-webapp コマンドの --directory オプションを非推奨とし、--file-on-server オプションを優先

大型アプリケーションでは、Web Server のルートディレクトリ外の場所に展開した war ファイルへのパスを指定するには、add-webapp コマンドの --file-on-server オプションを使用する必要があります。ただし、管理サーバーは、Web Server のルートディレクトリ以外の場所に配備した Web アプリケーションは管理しません。詳細については、[add-webapp\(1\)](#) and 『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide](#)』の「[Deploying a Web Application Directory](#)」を参照してください。

Web Server 7.0.9 で解決された問題

この節では、Web Server 7.0.9 で解決された重要な問題を一覧表示します。

問題 ID	説明
6837680	逆プロキシの範囲ヘッダーが複数の値を取りません
6885216	パスワードファイルが正しくないときに、WS7.0u6:wadm がエラーを出力しません
6896709	Web Server 7.0 が、インストールパス外に配備された Web アプリケーションを正しく処理しません
6899047	低待ち時間モードで、conn->elapsed が新しい ka 要求に対して更新されません (要求ヘッダータイムアウト)。
6901051	o または ou にコンマが含まれる場合、証明書をインストールできません
6911225	PAM 認証: パスワードのエージングにより、webservd が free_resp 関数でコアダンプします
6911277	サーバーが、/j_security_check で終わる URL に対して 404 を返します
6913746	ホスト名の最初の文字が数字である場合、サーバーを起動できません
6914493	回帰: wadm reset-admin-password コマンドが Web Server 7.0 U6 および U7 で失敗します
6917800	大量のメモリー消費を引き起こす可能性がある、Web Server 7 の自動チューニングに関するドキュメントバグ
6920807	日本語版 Windows OS で、管理 GUI 「認証局タブ」と wadm 「list-certs」にエラーが表示されました
6927134	Web 7u8 - 管理 GUI が <virtual-server>-obj.conf に IF/ELSEIF を追加します

6928578	htaccess config により、RHEL & SUSE Linux のインストールで Web サーバーがクラッシュします
6928808	要求送信を行う Java リソースでの HEAD 要求に対する ClassCast 例外
6931166	AIX 5.3/6.1 JDK6SR7 認証に合わせて LIBPATH を修正する必要があります
6933187	ロードバランサのオフラインサーバーチェック間隔が設定できる必要があります
6940796	net_read は、タイムアウトしたときに errno に EAGAIN を設定できます。
6944895	Web7 RPP に jsessionid がありません
6947057	Web7 RPP ドキュメント - retries パラメータをドキュメントに追加します
6955691	WS7: max-xml-request-body-size を無制限に設定すると、webdav がクラッシュします
6958053	Web 7: war ファイル内のファイル名にコンマを含んだファイルによって、管理 GUI に「配備停止」と表示されます
6960564	WS7U8 を IBM AIX 6.1 にインストールしようとする、エラーメッセージが生成されるが、インストールは成功します。

ハードウェアとソフトウェアの要件

この節では、以下のトピックを含む Web Server 7.0.9 のハードウェアとソフトウェアの要件について、以下のトピックにわたって説明します。

- [8 ページの「サポートされるプラットフォーム」](#)
- [8 ページの「システム仮想化のサポート」](#)
- [9 ページの「オペレーティングシステム用パッチ」](#)
- [12 ページの「サポートされているブラウザ」](#)
- [12 ページの「非推奨に関する注意点」](#)

サポートされるプラットフォーム

Web Server 7.0.9 でサポートするオペレーティング環境およびハードウェアの全情報は、「Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 動作保証一覧」に記載しています。これは、「Oracle Fusion ミドルウェアでサポートするシステム構成」のページにあります。

システム仮想化のサポート

システム仮想化とは、複数のオペレーティングシステム (OS) インスタンスが共有ハードウェア上で独立して動作することを可能にするテクノロジーのことです。機能的には、仮想化環境内でホストされている OS に配備されたソフトウェアは通常、背

後のプラットフォームが仮想化されていることに気づきません。Oracle では、適切に設定された適切なサイズの仮想化環境上で、仮想化されていないシステム上の場合と同様に製品が機能することを確認できるよう、選択したシステム仮想化と OS の組み合わせについて Oracle 製品のテストを実行しています。

仮想化環境での Oracle 製品に対する Oracle サポートの詳細については、「[Oracle Fusion ミドルウェアでサポートする仮想化テクノロジー](#)」を参照してください。

オペレーティングシステム用パッチ

適用可能な最新のパッチでオペレーティングシステムを更新します。次の各節では必須パッチを一覧表示します。

Solaris のパッチ

Solaris 9 または 10 オペレーティングシステムの x86 ユーザーまたは SPARC ユーザーは、最新のパッチクラスタをインストールするようにしてください。このパッチクラスタは、<http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=patchpage> Web サイトの「推奨 & セキュリティパッチ」で利用可能になっています。

注 - 32 ビット Solaris (SPARC) プラットフォームの場合、次の節で列挙されているパッチに加えて、SUNWLibC パッケージと SUNWLibCx パッケージをインストールしてください。

Web Server 7.0 インストーラは、必須パッチがマシンにインストールされているか判定します。それらのパッチがなかった場合、インストールは失敗します。サポートされたプラットフォーム上に Web Server 7.0 を正常にインストールして、正しく機能させるには、次の各パッチが必要です。

注 - <http://sunsolve.sun.com> で入手可能なパッチが「古くなっている」場合、最新版には最新のバグ修正と製品の機能拡張が含まれているので、それらのパッチの最新版をダウンロードします。

注- マシンにインストールされている Solaris オペレーティングシステムのバージョンを確認するには、`/etc/release` ファイルを参照します。

`/etc/release` ファイルには、Solaris オペレーティングシステムのバージョン情報が次の形式で含まれています。

```
Solaris 10 6/06 s10x_u2wos_08 X86
Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc. All Rights Reserved.
Use is subject to license terms.
Assembled 02 May 2006
```

Solaris 9 プラットフォーム (SPARC)

- Solaris 9 9/05
- 112970-12
- 111711-26 — C++ 用の共有ライブラリパッチ (32 ビット版の Web Server 向け)
- 111712-26 — C++ 用の共有ライブラリパッチ (64 ビット版の Web Server 向け)
- 112963-34
- 111722-05
- 112233-12

Solaris 9 プラットフォーム (x86)

- Solaris 9 9/05
- 114354-11
- 117172-17 — カーネルパッチ
- 111713-23 — C++ 用の共有ライブラリパッチ
- 113986-28
- 111728-04
- 117172-17

Solaris 10 プラットフォーム (SPARC および x86)

注 - 64 ビット版の Web Server の場合、`# pkginfo SUNWlxml` コマンドを実行して、SUNWlxml パッケージがインストールされているかどうかをチェックする必要があります。このコマンドを実行すると、次のような出力が生成されます。

```
system      SUNWlxml The XML library
```

このパッケージは、最低レベルのインストール `METACLUSTER=SUNWCmreq, NAME=Minimal Core System Support` を選択した場合でも、常に Solaris 10 の標準インストールでインストールされます。

このパッケージが不要な場合は、`pkgrm` コマンドを使用してパッケージを削除するか、このパッケージが含まれない JumpStart イメージを使用してください。

- SPARC
 - 119963-20 - C++ 用の共有ライブラリパッチ
- x86
 - 119964-20 - C++ 用の共有ライブラリパッチ

互換性のないパッチ

互換性のない一部のパッチは、Web Server の起動に影響を与え、サーバーが要求に回答しない結果を招く恐れがあります。次の表に、そのようなパッチの一覧を示します。互換性のないパッチがマシンにインストールされている場合は、そのパッチを互換性のある推奨パッチに更新します。

表1 互換性のないパッチのリスト

オペレーティングシステム	互換性のないパッチ	互換性のある推奨パッチ
Solaris 9 SPARC	112963-22 (リンカーパッチ)	112963-25 (リンカーパッチ)
	112963-23 (リンカーパッチ)	
	112963-24 (リンカーパッチ)	
Solaris 9 x86	113986-18 (リンカーパッチ)	113986-21 (リンカーパッチ)
	113986-19 (リンカーパッチ)	
	113986-20 (リンカーパッチ)	

AIX のパッチ

AIX 5.3

- 5300-08-01-0819 以上

AIX 6.1

- 6100-00-04-0815 以上

サポートされているブラウザ

Web Server 7.0.9 でサポートされる Web ブラウザの全情報は、「Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 動作保証一覧」に記載されています。これは、「[Oracle Fusion ミドルウェアでサポートするシステム構成](#)」のページにあります。

非推奨に関する注意点

非推奨のオペレーティングシステムのバージョン。iPlanet Web Server 7.0.9 のリリース時点で、次のオペレーティングシステムのバージョンが非推奨になっています。

Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition, Service Pack 2
Solaris 9 Update 8 x86 (32 ビット)
Solaris 9 Update 9 SPARC (32 および 64 ビット)

iPlanet Web Server の今後のリリースでは、これらのオペレーティングシステムは動作保証対象外になります。

動作保証対象外のオペレーティングシステムのバージョン。iPlanet Web Server 7.0.9 のリリース時点で、次のオペレーティングシステムのバージョンが動作保証対象外になっています。

HP-UX 11.11
Microsoft Windows 2000 Server および Windows 2000 Advanced Server
Microsoft Windows XP
Novell SUSE Linux Enterprise Server 9
OpenSolaris
Red Hat Enterprise Linux Advanced Server 3
Solaris 8

非推奨の **Web** ブラウザのバージョン。iPlanet Web Server 7.0.9 のリリース時点で、次の Web ブラウザのバージョンが非推奨になっています。

Firefox 2
Microsoft Internet Explorer 6
Mozilla (全バージョン)

iPlanet Web Server の今後のリリースでは、これらの Web ブラウザのバージョンはサポート対象外になります。

インストール、移行、およびアップグレードに関する注意点

この節では、Web Server のインストール、移行、およびアップグレードに関する注意点を示します。これらのトピックの詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Installation and Migration Guide](#)』を参照してください。このリリースの Web Server における既知の問題については、このリリースノートの [16 ページ](#)の「[既知の問題点](#)」を参照してください。

インストール

以前のバージョンの Web Server が含まれているディレクトリに Web Server をインストールすることはできません。ただし、Web Server を新しいディレクトリにインストールしたあとで既存のインストールを移行することはできます。

Web Server は、Java Enterprise System の一部またはスタンドアロンバージョンとしてインストールできます。

スタンドアロンインストール

スタンドアロンインストールでは、NSS や NSPR などの必要な共有コンポーネントはすべて、Web Server インストールファイルとともにパッケージ化されます。

Java ES インストール

Web Server を Java ES スイートの一部としてインストールする場合は、Java ES インストーラによって、NSS や NSPR などのすべての共有コンポーネントは別々のパッケージとして、Web Server 固有のバイナリは別々のオペレーティングシステム依存のパッケージとしてインストールされます。したがって、すべての共有コンポーネントパッチおよび Web Server パッチをダウンロードして、インストールする必要があります。

[Sun Solve \(http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patches/patch-access\)](http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patches/patch-access) を参照してください。それぞれのオペレーティングシステム用の最新の Java ES コンポーネントパッチをダウンロードしてインストールします。

注 - 最新の NSS/NSPR パッチをシステムにインストールしないと、Web Server 7.0 Update 5 が正常に起動しません。したがって、Web Server 7.0 Update 5 をインストールする前に、Update 5 パッチにバンドルされた Web Server 7.0 Update 5 パッチ README で、システムで使用できる適切な NSS パッチを確認してください。

移行

Web Server 6.0 および 6.1 の設定は移行できます。6.0 未満の Web Server バージョンからの直接移行はサポートされていません。Web Server 4.0 以降などの以前のバージョンは、まず Web Server 6.1 に移行し、それから Web Server 7.0 に移行する必要があります。Web Server 4.0 以降から Web Server 6.1 への移行については、[http://docs.sun.com/app/docs/prod/sjs.websrv61?l=en\[amp\]a=view](http://docs.sun.com/app/docs/prod/sjs.websrv61?l=en[amp]a=view) で最新の『Sun Java System Web Server 6.1 Installation and Migration Guide』および『Sun Java System Web Server 6.1 リリースノート』を参照してください。

Web Server 4.1 から Web Server 7.0 への移行や、Web Server 6.0 のすべてのバージョンから Web Server 7.0 への移行の詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Installation and Migration Guide](#)』を参照してください。

アップグレード

Sun Java System Web Server 7.0 の既存のインストールの上に Sun Java System Web Server 7.0.9 をインストールする場合、インストーラが自動的にアップグレードを実行します。

Sun Java System Web Server 7.0 をインストールしている場合、Sun Java System Web Server 7.0 Update 7 インストーラに Web Server 7.0 のインストール場所を指示して、アップグレードします。

Sun Java System Web Server 7.0 が Java ES 5 の一部としてインストールされている場合は、Web Server 7.0 Update 7 にアップグレードするために、<http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patchpage> Web サイトにある次のパッチをインストールすることをお勧めします。

- 125437 (Solaris SPARC/SPARCv9)
- 125438 (Solaris x86/x64)
- 125439 (Linux)
- 125440 (HP-UX)
- 125441 (Windows)

Web Server のローカライズされたバージョンを使用している場合は、Web Server 7.0 から Web Server 7.0 Update 7 に正常にアップグレードするため、ベースパッチをインストールする前に、次のパッチをインストールしてください。

- 126331-07 (Solaris SPARC (8/9/10)) (Solaris SPARC ローカリゼーションパッチ ID)
- 126332-07 (Solaris x86 (8/9/10)) (Solaris x86 ローカリゼーションパッチ ID)

Web Server 7.0 Update 5 では、マルチリンガルファイルはベースパッチに統合されています。このため、Web Server 7.0 マルチリンガルパッケージがシステムにインストールされている場合は、最初に I10n パッチ 126331-05 (Sparc)/126332-05 (x86) をインストールしてから、ベースパッチ 125437-15 (Sparc)/125438-15 (x86) 以降をインストールしてください。

Web Server 7.0 から Web Server 7.0 Update 5 へのアップグレードの詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Installation and Migration Guide](#)』を参照してください。

互換性の問題

1. Web Server 7.0 は JavaServer Faces 1.2 テクノロジーをサポートします。JavaServer Faces 1.1 アプリケーションのほとんどは、何の変更を加えなくても Web Server 7.0 と連動するはずですが、アプリケーションを JavaServer Faces 1.2 アプリケーションに移行するときに何らかの互換性の問題が発生する可能性があります。その場合は、アプリケーションに変更を加える必要があります。この変更については、次の JavaServer Faces リリースノートで説明されています。https://javaserverfaces.dev.java.net/rlnotes/1.2_04/issues.html
2. Sun Java System Portal Server 7.1 は Java ES 5 で提供され、Sun Java System Web Server 7.0 Update 1 と互換性がありません。Sun Java System Portal Server 7.1 を Web Server 7.0 とともに配備している場合、Sun Java System Web Server 7.0 だけでなく両方のサーバーをアップグレードする必要があります。必要な Sun Java System Portal Server 7.1 のアップグレードは、Java Enterprise System 5 Update 1 で、または <http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patchpage> Web サイトから入手できる次のパッチで行えます。
 - 124301 (SPARC)
 - 124302 (x86)
 - 124303 (Linux)

Web Server のローカライズされたバージョンを使用している場合は、Portal Server の次のローカリゼーションパッチもインストールしてください。

- 125301 (Solaris SPARC および Solaris x86 ローカリゼーション)
- 125302 (Linux ローカリゼーション)

既知の問題点

この節では、Web Server 7.0.9 がリリースされた時点での重要な既知の問題および制限を一覧表示します。

- 16 ページの「管理」
- 24 ページの「コア」
- 25 ページの「FastCGI」
- 26 ページの「インストール」
- 27 ページの「移行およびアップグレード」
- 31 ページの「サンプルアプリケーション」
- 31 ページの「検索」
- 31 ページの「セキュリティ」
- 32 ページの「セッションレプリケーション」
- 33 ページの「Web コンテナ」
- 33 ページの「ローカリゼーション」
- 35 ページの「Sun Java Enterprise System」

管理

次の表に、Web Server の管理における既知の問題の一覧を示します。

表2 管理における既知の問題

バグ ID	説明
6944873	<p>IBM JDK 6 を使用した AIX で、uid に二重引用符が含まれ、LDAP レルムを使用するように Web Server が設定されている場合に、ユーザー認証が失敗する</p> <p>この問題は IBM JDK のバグが原因で起こります。</p>
6364924	<p>あるノードを複数の管理サーバーに登録すると、これにより設定の衝突が発生する可能性がある。</p> <p>ある1つのノードを、最初の管理サーバーへの登録を取り消すことなしに2番目の管理サーバーにも登録できます。ただしこの場合、ノードはどちらの管理サーバーへもアクセスできなくなります。</p> <p>回避方法:</p> <p>登録のたびに管理ノードを再起動します。その管理ノードは、登録先として最後に使用した管理サーバーに対して使用可能になります。</p>

表2 管理における既知の問題 (続き)

バグID	説明
6379125	<p>wadm コマンドが、ノードへの接続を許可し、証明書を表示したあと、「HTTP 400 Error」をスローする。</p> <p>ある管理ノードが接続を受け取ると、その管理ノードはその接続が管理サーバーからのものであるかをチェックしないまま処理を続行します。これは、不適切なエラーメッセージを出力するだけでなく、さらにパスワードの入力をユーザーに求めます。</p>
6327352	セッションレプリケーションが有効なインスタンスが、クラスタ内のほかのインスタンスが起動されていない場合に正常に起動されない。
6393534	migrate-jks-keycert コマンドを使って Java キーストア keycert を移行したあとで、 list-certs コマンドを使って移行された jks keycert を一覧表示しようとすると、証明書のニックネームの代わりに CN 、 org などの情報が表示される。
6407486	wadm set-ssl-prop コマンドを使った SSL プロパティの設定時に、 server-cert-nickname プロパティが、サーバー証明書のニックネームだけでなく、すべての証明書のニックネームを受諾してしまう。
6443742	<p>「ノード」オプションに修飾されたドメイン名を指定すると、set-session-replication-prop CLI コマンドが正しく動作しない。</p> <p>回避方法</p> <p>set-session-replication-prop コマンドで、有効なノード名として list-nodes コマンドの出力を使用します。</p>
6468570	wadm のプロンプトで「 yes 」を指定すると、 CLI がクラッシュする。
6469676	管理証明書の期限が切れたあとで管理サーバーに接続しようとすると、不正なエラーメッセージが表示される。
6480600	管理サーバーのディスク容量が不足すると、 register-node コマンドによって不正なエラーメッセージが表示される。
6495446	デバイス上にディスク容量がない場合に、 wadm によって不正なエラーメッセージ「管理サーバーと通信できません。」がスローされる。
6502800	<p>「--all」オプションと「--instance」オプションを両方指定して migrate-server コマンドを実行しても、エラーにならない。</p> <p>相互に排他的なオプションをユーザーが設定しようとしていることを示す、警告メッセージまたはエラーメッセージを表示すべきです。</p>
6416328	<p>管理コンソールの「インスタンスを起動」ボタンが、すでに実行中のインスタンスに対して有効になる。</p> <p>ボタンの有効化/無効化は、インスタンスの状態に基づくべきです。</p>

表2 管理における既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6418312	wadm によって、重複したユーザープロパティの定義が許可される。 重複したユーザープロパティを追加してもエラーメッセージは表示されません。それにもかかわらず、新しいユーザープロパティは作成されません。
6421740	管理コンソールまたは CLI を使って新しいアクセス制御リスト (ACL) ファイルを作成する機能がプロビジョニングされていない。
6423432	Windows 上で既存の設定を使用して、登録済みノードを追加して削除する処理を繰り返すと、検証が失敗する。
6430417	MIME タイプに複数バイト文字を含む MIME 値が許可される。
6442081	「アクセス制御リスト」 ページ内のテキストがフォーマットされていない。
6442172	あるユーザーを認証データベースから削除しても、 ACE の「選択可能」リストと「選択」リストとの間でそのユーザーを切り替えることができる。
6446162	キーまたは digestfile 認証データベースを削除する前に警告が発行されない。
6448421	管理インタフェースによって、複数バイトのユーザー ID を持つ新しいユーザーがキーファイル認証データベース内に作成できてしまう。
6455827	管理コンソールの「ユーザー」 および「グループ」 テーブルで結果の全体が単一ページ内に表示される。
6461101	管理コンソールの「自己署名付き証明書を作成」 ページの「証明書を要求」と「インストール」 ボタンのラベルを改訂する必要がある。
6462057	「選択可能」 リストに項目が存在していない場合でも、新しい ACE ウィンドウの「追加」 ボタンと「削除」 ボタンが有効になる。
6464891	管理コンソールでのサーバーログの表示が 50 行または 2 ページに切り詰められる。
6465382	証明書要求ウィザード内の間違った国番号のエントリをチェックするための検証機能が存在しない。
6465421	管理コンソールで、仮想サーバー、認証データベース、 dav コレクション、イベントの各フィールドに対するテキストフィールドの説明が提供されていない。
6466336	新しい設定を作成するときに、管理コンソールに間違った JDK バージョンが表示される。 管理コンソールに表示される JDK バージョンは、 5.0 u7 ではなく 5.0 u6 です。
6471171	「ノード」 -> 「管理サーバー」 -> 「一般」 タブから管理サーバーを再起動すると、スタイルフォーマットが失われる。
6471367	同じブラウザの別のタブ内の管理コンソールにアクセスしようとしても、うまくいかない。

表2 管理における既知の問題 (続き)

バグID	説明
6471792	「ログを表示」で結果が単一ページに表示される。 レコードサイズに選択される検索条件は25ログエントリですが、50を超えるログエントリが存在する場合でも、ログは結果を単一ページ内に表示します。
6472932	トークンパスワードをいったん削除してから「共通操作」->「構成を選択」->「構成を編集」->「証明書」->「PKCS11 トークン」ページでリセットすると、トークン不一致エラーが表示される。
6486037	「仮想サーバー管理」->「コンテンツ処理」->「ドキュメントディレクトリ」->「追加」に、追加ドキュメントディレクトリのパスを選択するための参照オプションを用意すべきである。
6492906	管理コンソールに表示される WebDAV コレクションロックに関するメッセージが、誤解を招く恐れがある。 WebDAV コレクションのタイムアウト値として <code>infinite</code> を指定した場合、「共通操作」->「構成を選択」->「仮想サーバーの選択」->「仮想サーバーを編集」->「WebDAV」->コレクションを選択すると、ページに、メッセージ <code>DOES NOT EXPIRE</code> が表示されます。これが実際に意味するところは、特定の時間が経過してもロックの有効期限が自動的に切れることはない、つまりタイムアウトが無限である、ということです。
6498484	「パスワードの設定」ボタンを使って空のトークンパスワードを設定すると、不正なエラーメッセージが表示される。
6500157	トークンパスワードを編集し、すでに実行中のインスタンス上に設定を配備しようとする、そのインスタンスの再起動が失敗する。
6502287	構成を削除してから「移行」ボタンをクリックすると、管理コンソールに例外が表示される。
6502374	管理コンソールの各ウィザードの「確認」画面には、値を持つフィールドだけが表示されるべきである。
6502793	移行中に、 log-dir パスのアクセス権の検証が行われない。
6266358	管理パスワードに拡張 ASCII 文字が含まれていると、管理 CLI 経由でログインできない。
6361329	エラー応答ファイルの名前を検証すべきである。
6367282	期限切れの証明書で管理サーバーが起動してしまう。 wadm は期限の切れた証明書について警告すべきである。
6375505	unregister-node コマンドは、管理ノード上の証明書のクリーンアップも行うべきである。
6408169	WebDAV ロック CLI がクラスタ環境で機能しない。

表2 管理における既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6408186	同じ管理サーバーに登録されている同一のノード上に管理ノードを複数インストールすることは、許可すべきではない。
6416369	管理ノードの URL にアクセスすると、 Page Not Found エラーが発生する。 管理ノードは GUI を持たないため、管理ノードの URL にアクセスすると Page Not Found エラーになります。
6422936	Java の「 JVM パス設定」で、クラスパスのプレフィックスとサフィックス、およびネイティブライブラリパスが検証されない。
6423310	server.xml の要素を機能に基づいてグループ化すべきである。
6441773	Windows では、 Web アプリケーションを停止する前に、管理サーバーが Web アプリケーションのファイルを物理的に移動する。
6462515	config ディレクトリ内に実行時ファイルが作成された際に管理コンソールに表示される「インスタンス設定が変更されています」というメッセージは、ユーザーの誤解を招く恐れがある。
6462579	ある管理ノードを管理サーバーから登録解除したあとでその管理ノードをアンインストールしても、トラストストアが削除されない。
6468330	JavaHome プロパティに加えた変更は、インスタンスの再起動後には保存されない。
6491749	obj.conf ファイルの破壊を防ぐために、特定のテキストフィールドでより本格的な検証を行う必要がある。 フォーム内のデータの機能的検証のほとんどは、バックエンドで行われます。GUI では、空フィールド、整数値、ASCII 値など、最小限のチェックのみを行います。したがって、解析時に破壊されるようなデータが、GUI によって obj.conf 内に格納されます。
6497213	restart-admin コマンドに続けて stop-admin コマンドを実行すると、管理エラーログに例外がスローされる。

表2 管理における既知の問題 (続き)

バグID	説明
6587832	<p>Windows で、管理コンソールが断続的に起動しなくなる。</p> <p>回避方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> この問題は、Windows 2003 で「Internet Explorer セキュリティ強化の構成」が有効になっている場合に発生します。 セキュリティ強化機能を無効にせずに管理コンソールにアクセスするには、ブラウザの信頼済みサイトのリストに、サイトを明示的に含めてください。 Internet Explorer のセキュリティ強化の構成を無効にするには、「コントロールパネル」>「プログラムの追加と削除」>「Windows コンポーネントの追加と削除」を選択します。 「Internet Explorer セキュリティ強化の構成」の隣にあるチェックボックスを選択解除します。 ブラウザを再起動します。
6746045	<p>config が変更されると、ドキュメントディレクトリ内のファイルの所有権が変更される。</p> <p>ユーザーがディレクトリを作成し、いくつかのファイルを追加してドキュメントディレクトリ内に配備する場合、このディレクトリ内のすべてのファイルの所有権が Web Server をインストールした所有者に変更されます。</p> <p>回避方法:</p> <p>ユーザーディレクトリをドキュメントディレクトリ内に作成すべきではありません。</p>
6750708	<p>Web Server 7.0 管理 CLI でマルチバイト文字の入力が受け付けられない。</p> <p>管理 CLI は、マルチバイトまたは ASCII 以外の文字を含む文字列を受け付けません。たとえば、コマンドとともに ASCII 以外の文字 (Felhasználók) を含む値を入力すると、入力値は次のように文字化けします。</p> <pre>wadm> set-authdb-prop --config=test --authdb=sajit url=ldap://test.example.com:389/ou=Felhaszn??l??k,dc=india,dc=example,dc=com</pre> <p>回避方法:</p> <p>ベース DN 値の入力時に server.xml ファイルを手動で変更する際、マルチバイト文字の代わりに URL エンコードシーケンスを入力してください。たとえば、「Felhasználók」の代わりに「Felhaszn%C3%A1l%C3%B3k」と入力します。</p>

表2 管理における既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6722375	<p>管理サーバーにより、パッチ 125437-14 と 125438-14 が代替ルートに準拠していない場合、管理サーバーにより postpatch スクリプトに関してエラーがスローされる。</p> <p>回避方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 代替起動環境にパッチを追加してから、代替起動 OS を起動します。 管理サーバーを起動します。 管理サーバーの起動が失敗し、次のエラーメッセージがスローされます。 <pre>java.lang.NoClassDefFoundError: com/sun/scn/client/comm/SvcTagException</pre> Web サーバーの postpatch スクリプトを編集し、ROOTDIR 値を / または /空白文字として定義します。ここに、JES ベースパスを指定します。 <pre>bash-3.00# cat postpatch #!/bin/ksh # Copyright (c) 2007 by Sun Microsystems, Inc. # All rights reserved # PATH="/bin:/usr/bin:/sbin:/usr/sbin:\$PATH" export PATH ROOTDIR=/ BASEDIR="pkgparam -R \$ROOTDIR SUNWwbsvr7 BASEDIR 2>/dev/null" if [-n "\$BASEDIR"] then INSTALL_DIR="\$ROOTDIR\$BASEDIR/SUNWwbsvr7"; PERLDIR="\$INSTALL_DIR/lib/perl" if [-f "\$INSTALL_DIR/lib/wsenv"] then . "\$INSTALL_DIR/lib/wsenv"; WS_IS_JES=1; export WS_IS_JES bash-3.00#</pre> <ol style="list-style-type: none"> スクリプトを実行してアップグレードを完了します。 <pre>bash-3.00# ksh /tmp/postpatch "/opt/SUNWwbsvr7/lib/perl/perl" -I "/opt/SUNWwbsvr7/lib/perl" -I "/opt/SUNWwbsvr7/lib/perl/lib" -I "/opt/SUNWwbsvr7/lib/perl/lib/site_perl" "/opt/SUNWwbsvr7/lib/upgradeServer.pl" bash-3.00#</pre> 管理サーバーが、エラーの生成なしで起動します。

表2 管理における既知の問題 (続き)

バグID	説明
6784450	<p>Mozilla Firefox 3.0 を使用して管理サーバーにログインできない。</p> <p>回避方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Solaris 10 プラットフォームの Mozilla Firefox 3.0.4 ブラウザで、「編集」->「設定」->「詳細」->「暗号化」、「証明書を表示...」ボタンを押して「サーバー証明書」タブに移動します。 2. 「例外を追加...」をクリックします。 3. アクセスする Web サイトのアドレスをテキスト領域に入力して、「セキュリティ例外を承認」をクリックします。
6820164	<p>OpenSolaris 2008.11 の Bug 4788 が Web Server に深刻な影響を及ぼす。</p> <p>OpenSolaris 2008.11 への Web Server の配備中に Web Server の証明書が影響を受け、次の警告が表示されます。</p> <pre>root# /opt/webserver7/admin-server/bin/startserv Oracle iPlanet Web Server 7.0U4 B12/02/2008 02:49 warning: CORE1235: SSL server certificate Admin-Server-Cert is not yet valid. ...</pre> <p>時刻に関する OpenSolaris の Bug 4788 が、この問題の原因となっています。その詳細については、Bug 4788 を参照してください。</p> <p>回避方法:</p> <p>OpenSolaris 2008.11 の配備後にサーバーを再起動し、サーバーの時刻を修正します。</p>
6842383	<p>Red Hat Enterprise Linux の FastCGI suid 環境</p> <p>Red Hat Enterprise Linux 上で FastCGI suid 環境を動作させるには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <code>cd <webserver_install>/plugins</code> 2. <code>chown webservd fastcgi</code> 3. <code>cd fastcgi</code> 4. <code>chmod 4755 Fastcgistub</code> 5. <code>/etc/ld.so.conf</code> に次の行を追加します。 <pre><webserver_install>/lib <webserver_install>/jdk/jre/lib/i365/server</pre> 6. <code>ldconfig</code> を実行します 7. Web Server を再起動します <p>注 - Web Server がインストールされているファイルシステムと <code>/tmp</code> ディレクトリには、<code>suid</code> プログラムの実行権を付与すべきです。ファイルシステムのマウント時に <code>nosuid</code> オプションを使用しないようにしてください。</p>

表2 管理における既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6893239	JDK 1.6.0 および JDK 1.5.0 ロガーが正しく機能していません。

コア

次の表に、Web Server のコアにおける既知の問題の一覧を示します。

表3 コアにおける既知の問題

バグ ID	説明
6944895	<p>ntrans-j2ee NameTrans が reverse-proxy-/NameTrans の前に置かれているときに、jsessionId が失われる</p> <p>ntrans-j2ee を reverse-proxy- / の前に置くように指定する NameTrans 指令が obj.conf に含まれる場合、jsessionid が失われます。</p> <p>回避方法</p> <p>次のように reverse-proxy- / が ntrans-j2ee より前になるように、NameTrans 指令の順序を変更します。</p> <pre>NameTrans fn="map" from="/" name="reverse-proxy-/" to="http:/" NameTrans fn="ntrans-j2ee" name="j2ee"</pre>
6948770	<p>64 ビットの Linux では、32 ビットと 64 ビットの Web Server を区別できない</p> <p>wadm -version コマンドは、Web Server が 32 ビットであるか 64 ビットであることを示しません。</p> <p>回避方法</p> <p>端末ウィンドウで次のコマンドを入力します。</p> <pre>file install-dir/lib/webservd</pre>
6955106	<p>Linux で、存在しない jhall.jar リンクのために起動時に例外が発生する</p> <p>起動中、Java は、jhall.jar を存在しないファイルとして指定する FileNotFoundException 例外をスローします。この状況は、sun-javahelp-2.0-fcs がアンインストールされた後に起こります。アンインストールで、/usr/java/packages 内に jhall.jar へのリンクが残されるからです。</p> <p>回避方法</p> <p>次のように、jhall.jar へのリンクを削除します。</p> <pre>rm -f /usr/java/packages/jhall.jar</pre>

表3 コアにおける既知の問題 (続き)

バグID	説明
6785490	<p>末尾が「実在する」ファイル名でないすべての URI は、適正な実行に失敗し、「No input file specified」エラーが生成される。</p> <p>PHP ユーザーの場合:</p> <p>Web Server 7.0 Update 4 では、FastCGI および CGI アプリケーション用の環境変数 <code>REQUEST_URI</code> および <code>SCRIPT_FILENAME</code> が生成されます。<code>SCRIPT_FILENAME</code> 変数の導入により、仮想 URI (末尾が <code>/index.html</code> ではなく <code>/</code> の URL) にマップされるスクリプト、または Web Server 7.0 の URI 書き換え機能を使用する URL にマップされるスクリプトで、<code>No input file specified PHP</code> エラーが表示されます。影響を受ける PHP バージョンは 5.2.5 - 5.2.9 です。詳細については、http://bugs.php.net/bug.php?id=47042 を参照してください。</p> <p>回避方法:</p> <p>PHP アプリケーションが仮想 URI にマップされている場合は、<code>php.ini</code> ファイルの <code>cgi.fix_pathinfo</code> を <code>0</code> に設定すべきです。Drupal、Wordpress、Joomla など、人気の多くの PHP アプリケーションでこの設定を行う必要があります。</p> <p>ただし、この設定によって、<code>/foobar.php/baz/</code> などの <code>path-info</code> に依存する PHP アプリケーションで <code>No input file specified PHP</code> エラーが返されます。<code>path-info</code> に依存する PHP アプリケーションでは、<code>cgi.fix_pathinfo</code> を無効にすべきではありません。</p>
6296993	ある <code>obj.conf</code> 指令の実行時にエラーが発生した場合、問題の指令が見つかった場所のファイル名と行番号がログに記録されない。
6365160	データ型の制約違反のために <code>server.xml</code> のスキーマ検証が失敗したときに、要素の一連の有効な値を説明しないエラーメッセージが表示される。
6378940	どの HTTP ヘッダー解析エラーにも、クライアント IP とエラーの説明が記録されない。
6470552	<code>set-variable SAF</code> が定義済みの変数を設定できなかった。
6489220	<p>サーバーが、<code>\$\$</code> 文字定数を含む非補間文字列を挿入文字列として扱う。</p> <p>あるパラメータ値に <code>\$\$ escape</code> が含まれている場合、サーバーは、そのパラメータブロックの <code>PblockModel</code> を構築します。<code>\$\$</code> は定数なので、これは不要です。</p>

FastCGI

次の表は、FastCGI における既知の問題を一覧したものです。

表4 FastCGIにおける既知の問題

バグID	説明
6485248	<p>reuse-connection が true に設定されていると、fastcgi スタブがすべてのプロセスを適切に閉じない。</p> <p>FastCGI プラグインとして PHP と連携するように Web Server 7.0 を設定し、<code>reuse-connection=true</code> を設定します。サーバーを停止または再設定するときに、<code>fastcgi()</code> プロセスとその子プロセスが取り残されて適切に終了されません。</p>

インストール

次の表に、Web Server のインストールにおける既知の問題の一覧を示します。

表5 インストールにおける既知の問題

バグID	説明
6948019	<p>Unix で、インストールパスのいずれかのディレクトリに対する適切な実行権限がない場合、サーバーの起動が失敗する</p> <p>インストールパスのいずれかのディレクトリで、<code>webserverd</code> ユーザーに実行権限が与えられない場合、Web Server インスタンスは起動に失敗します。</p> <p>回避方法</p> <p>必要に応じて <code>chmod o+x directory</code> を使用して、インストールパス内のディレクトリに対する実行権限を変更します。</p>
6414539	<p>管理ノードをアンインストールしても、そのノードが管理サーバーのノードから削除されない。</p> <p>管理ノードをインストールし、それを「ノード」タブで管理サーバーに登録すると、「ノード」タブ内にその管理ノードが表示されます。管理ノードをアンインストールしたときに、その管理ノードのエントリが「ノード」タブ内に残ります。</p>
6287206	<p>ネットワーク上の共有フォルダから設定が起動されると、インストールが実行できない。</p> <p>Windows プラットフォームでは、別のマシン上の共有ネットワークフォルダからインストーラ <code>setup.exe</code> を起動すると、製品をインストールできません。</p>

表5 インストールにおける既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6311607	<p>Windows で、管理パスワードが 8 文字以上の場合にインストーラが CLI モードでクラッシュする。</p> <p>管理ユーザーパスワードが8文字以上である場合、管理ポート、Web サーバーポート、または管理ユーザー ID への入力の中に1つでも無効なものがあると、インストーラがクラッシュします。</p> <p>回避方法:</p> <p>コマンド行インタフェース (CLI) を使って Web Server 7.0 を Windows プラットフォーム上にインストールする場合、管理パスワードを8文字未満 (<8) に設定する必要があります。</p>
6408072	<p>Windows の場合、「プログラム」フォルダ内のオブジェクトに対するアイコンが必要である。</p> <p>Windows 上の「Web Server 7.0」フォルダ内のオブジェクトは、デフォルトの Windows プログラムアイコンで作成され、Sun のプログラムであることを示す独自のアイコンを備えていません。</p>
6492144	<p>パスワード入力時に CLI インストーラが Ctrl + C キーの入力を処理しない。</p> <p>インストーラが <code>ctrl+c</code> キーの入力を受け付けられないため、端末が使用不可能になります。</p>
6710925	<p>RH5.1 ユーザーが GUI モードで Web Server 7.0 Update 3 をインストールできない。</p> <p>回避方法</p> <p>この失敗を回避するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CLI ベースのインストーラを使用します。 2. <code>xdpyinfo</code> コマンドへのシンボリックリンクを作成します。次に例を示します。 <pre>[root@server bin]# ln -s /usr/bin/xdpyinfo /usr/X11R6/bin/xdpyinfo</pre>
6717123	<p>「登録オプション」パネルの UI が正しく表示されない場合がある</p> <p>インストーラの「登録オプション」GUI が正しく表示されない場合があります。</p> <p>回避方法:</p> <p>インストーラのウィンドウのサイズを変更すると、この問題が解決されます。</p>

移行およびアップグレード

次の表に、Web Server 7.0 の移行およびアップグレード領域における既知の問題の一覧を示します。

表6 移行およびアップグレードにおける既知の問題

バグID	説明
6914893	<p>6.0 jvm12.conf ファイルのプロパティの中に、7.0 server.xml ファイルに移行されないプロパティがある</p> <p>Sun iPlanet Web Server 6.0 から Oracle iPlanet Web Server 7.0 に移行するとき、フォームの 6.0 jvm12.conf ファイルのプロパティが、</p> <p><i>name = value</i></p> <p>7.0 server.xml ファイルに、JVM オプションとして移行されません。『『iPlanet Web Server 6.0, Enterprise Edition プログラマーズサーブレットガイド』』の「「jvm12.conf Parameter Reference」」(http://docs.sun.com/source/816-5689-10/xjvm.htm#22633)に一覧表示されたプロパティだけが移行されます。</p> <p>回避方法</p> <p>これらのプロパティの値を手動で移行します。手動で移行するには、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Configuration File Reference』の第3章「Elements in server.xml」を使用して、移行している jvm12.conf プロパティに対応する server.xml 要素またはサブ要素を探し、値を server.xml ファイルに転送します。</p>
6407877	<p>installed.pkg ファイルが見つからない場合、Web Server 6.0 から 7.0 に移行するときに不正な移行が行われる。</p> <p>Web Server 6.0 から 7.0 に移行するときに installed.pkg ファイルが見つからないと、Web Server は、magnus.conf ファイル内の NSServlet エントリを不正に移行します。</p>
6490124	<p>6.x->7.0: 移行済みのスケジュールされたイベントが依然として server.xml ファイル内の 6.x のパスを指している。</p>
6502529	<p>6.1->7.0: 移行時に、search-collection-dir 用に設定された相対パス設定が処理されない。</p> <p>インスタンス移行時に、検索コレクションのコピー先になるターゲットパスの相対パスを指定しても、config-store に対して検索コレクションディレクトリが作成されず、インスタンスをインスタンス化するときに、検索コレクションが適切に移行されずにインデックスが作成されます。</p>
6502769	<p>6.x->7.0: 移行時に obj.conf ファイル内のすべての「ドキュメントルート」の NameTrans が無視される。</p>
6498806	<p>Windows では、Web Server の管理コンソールは移行の間、適切な警告をユーザーに与えない。</p> <p>管理サーバーは、選択された新しい設定またはサービス名が Windows 上にすでに存在するかどうかを検出しないため、別の設定名を選択するようユーザーに適切に警告したり、別の設定名をデフォルトとして提案したりしません。</p>

表6 移行およびアップグレードにおける既知の問題 (続き)

バグID	説明
6500509	Web Server 7.0 の移行ツールは、ルート証明書がインストールされていると Web Server 6.1 から正常に移行することができない。
6747123	<p>Web Server 7.0 Update 2 リリースで、要求処理動作が変更した。</p> <p>Web Server 7.0 Update 2 RPP を使用しているときには、この変更の影響は現れません。</p> <p>Web Server の要求処理エンジンは、Web Server での重要なエラーを修正するために変更されており、これによって Web サーバーがサーバー内の obj.conf ファイルにあるオブジェクトおよび指令を処理する順序が変更されています。この修正によって、要求の処理中に次の規則の適用が保証されるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 要求に適用されるすべての ppath オブジェクトが評価される。 ■ 2つのオブジェクトが競合する場合、要求に適用される名前付きオブジェクトがあれば ppath オブジェクトよりも優先される。 <p>obj.conf ファイルに ppath オブジェクトが含まれている場合、obj.conf ファイルを変更する必要があるかどうかを確認するために評価する。前述のように要求処理の動作が変更された結果として、以前のバージョンの Web Server を Web Server 7.0 Update 2 以降にアップグレードすると、この表の後に説明するように、obj.conf ファイルを少し変更しなければならない場合があります。</p>

Web Server 7.0 Update 2 での要求処理動作の変更に対する対処

要求処理の動作が変更された結果として、以前のバージョンの Web Server を Web Server 7.0 Update 2 以降にアップグレードすると、次のように obj.conf ファイルを少し変更しなければならない場合があります。

1. IF 指令を使用する

次の例では、ntrans-j2ee NameTrans SAF が JSP 拡張子に適用され、j2ee という名前のオブジェクトが評価されるため、明示的な JSP 拡張子が要求 URI に見つからないときは、ppath オブジェクトに含まれる指令が起動されません。obj.conf ファイルへの変更はありませんが、要求を WebLogic サーバーに転送するためにここで使用される WebLogic プロキシサービスは起動されなくなりました。その結果、Web サーバーは要求を WebLogic プロキシではなく独自の Web コンテナに送信するため、要求が失敗します。

obj.conf ファイルのデフォルトオブジェクトで、問題のある URI を含む ntrans-j2ee サービスに条件文を次のように追加します。

```
<Object name="default">
AuthTrans fn="match-browser" browser="*MSIE*" ssl-unclean-shutdown="true"
#
#Adding <IF...> and </IF> bracketing to compensate
for change in ppath processing
#
<IF $uri !~ ".*WebApp/.*" >
NameTrans fn="ntrans-j2ee" name="j2ee"
```

```
PathCheck fn="find-index-j2ee"
ObjectType fn="type-j2ee"
Error fn="error-j2ee"
</IF>
....
....
<Object name="j2ee">
Service fn="service-j2ee" method="*"
</Object>

<Object ppath="*/examplesWebApp/*" >
Service fn=wl_proxy WebLogicHost=jwsse10.red.iplanet.com WebLogicPort=7001
</Object>

<Object ppath="*/ejemploWebApp/*">
Service fn=wl_proxy WebLogicHost=jwsse10.red.iplanet.com
WebLogicPort=7002
</Object>
</Object>
```

これにより、URI が一致しないときにのみ、ntrans-j2ee を実行できます。

2. assign-name NameTrans を使用する

単純なシナリオでは、デフォルトオブジェクトで assign-name を使用して、ppath オブジェクトを name オブジェクトに変更できます。これにより、assign-name を ntrans j2ee よりも先に実行できます。

```
<Object name="default">
NameTrans fn="assign-name" from="/examplesWebApp/*" name="examples_proxy"
NameTrans fn="assign-name" from="/ejemploWebApp/*" name="ejemplo_proxy"
NameTrans fn="ntrans-j2ee" name="j2ee"
....
....
</Object>

<Object name="j2ee">
Service fn="service-j2ee" method="*"
</Object>

<Object name="examples proxy" >
Service fn=wl_proxy WebLogicHost=jwsse10.red.iplanet.com WebLogicPort=7001
</Object>

<Object name="ejemplo proxy">
Service fn=wl_proxy WebLogicHost=jwsse10.red.iplanet.com WebLogicPort=7002
</Object>
```

3. 無効化する

Web Server で Java Web コンテナのサポートをオフにすると、JSP が WebLogic プロキシ機能で処理されるようになります。ただし、プロキシ階層で Java コンテンツをホストする予定がない場合にのみ、これを行うことをお勧めします。

サンプルアプリケーション

次の表に、Web Server のサンプルアプリケーションにおける既知の問題の一覧を示します。

表7 サンプルアプリケーションにおける既知の問題

バグID	説明
6472796	<p>sendmail.jsp によって示されている、javamail サンプルアプリケーションの resource.host を指定するために編集するファイルが間違っている。</p> <p>回避方法</p> <p>javamail.resource.host を設定するには、javamail.build.properties を編集します。install-dir/samples/java/webapps/javamail/src/docroot/sendmail.jsp 内で指定された build.xml ではありません。</p>

検索

次の表に、Web Server の検索機能における既知の問題の一覧を示します。

表8 検索における既知の問題

バグID	説明
6943388	<p>ドキュメント数が増えると、検索コレクションの構築がハングアップする</p> <p>多数のドキュメントの検索コレクションを構築すると、プロセスがハングアップします。</p> <p>この状況は、各ドキュメントの処理が新しいスレッドで行われ、それぞれがヒープ空間を消費するために発生します。</p> <p>回避方法</p> <p>-Xmx オプションを使用して、Java ヒープサイズを増やします。たとえば、128 MB (-Xmx128m) から 512 MB (-Xmx512m) にヒープサイズを増やすことができます。</p>
6701532	<p>検索エンジンが、パスワードで保護された PDF ドキュメントのインデックス作成に失敗する</p> <p>PDF ドキュメントがパスワードで保護され暗号化されている場合、検索エンジンがそのドキュメントのメタデータのインデックス作成に失敗します。その結果、要求された検索が失敗します。</p>

セキュリティ

次の表に、Web Server のセキュリティ領域における既知の問題の一覧を示します。

表9 セキュリティにおける既知の問題

バグID	説明
6376901	<p>同一ディレクトリ内のリソースに関する基本ベースおよびダイジェストベース ACL のサポートに制限がある。</p> <p>サーバーがダイジェストベースの ACL と基本ベースの ACL をドキュメントツリー内の異なる部分で使用する場合、その両方を同一ディレクトリ内の異なるファイルやリソースで同時に使用しようとしても、失敗します。</p>
6431287	<p>TLS_ECDH_RSA_* には、RSA キーで署名されたサーバー証明書が必要である。</p> <p>書式 TLS_ECDH_RSA_* の暗号化方式群を使用するには、サーバーが ECC キーペアと、RSA キーで署名された証明書を持っている必要があります。ここでは、自己署名付き証明書でこれらの暗号化方式群を使用することが除外されている点に注意してください。この要件はこれらの暗号化方式群にとって特有なものであり、バグではありません。サーバーはこれらの暗号化方式群に関連する間違っただ設定を検出して警告を発するべきですが、現時点ではそのようになっています。</p>

セッションレプリケーション

次の表に、Web Server 7.0 のセッションレプリケーション機能における既知の問題の一覧を示します。

表10 セッションレプリケーションにおける既知の問題

バグID	説明
6324321	<p>リモートでエラーが発生したときに、詳しいエラーメッセージが表示されない。</p> <p>リモートで例外が発生すると、リモートインスタンスのエラーログ内にエラーメッセージが記録されます。ところが、ローカルインスタンスは現時点では、ユーザーがどのエラーログを参照する必要があるかが明確に示されていない、汎用的なりモート例外を表示します。</p>
6396820	<p>クライアントの Cookie が無効になっていると、セッションレプリケーションが正しくフェイルオーバーされない。</p>
6406176	<p>有効になっている場合、セッションレプリケーションは、デフォルトのセッションマネージャーになるべきである。</p> <p>管理コンソールまたは CLI を使用するか server.xml ファイルを編集してセッションレプリケーションを有効にしても、セッションレプリケーションは実際には有効になっていません。代わりに、sun-web.xml を手動で編集する必要があります。</p>
6800993	<p>async クラスタが使用できないために、わずかなデータ損失が発生する。</p> <p>HTTP セッションでわずかなデータ損失が発生するケースが確認されています。セッションフェイルオーバーで asnc パラメータを使用して非同期実装すると、この問題が解決する場合があります。</p>

Web コンテナ

次の表に、Web Server の Web コンテナにおける既知の問題の一覧を示します。

表 11 Web コンテナにおける既知の問題

バグID	説明
4858178	Web コンテナが標準エラーに書き込む。
6349517	<p>1 を超える MaxProcs モードでの Web アプリケーションのセッション統計情報が正しくない。</p> <p>Web Server はマルチプロセスモードで実行されます。プロセスの最大数を設定するには、<code>magnus.conf</code> 内の <code>MaxProcs</code> 設定変数を使用します。<code>MaxProcs</code> の値が 1 より大きい値に設定されていると、Web Server は、<code>mmap</code> ベースのセッションマネージャーを使って異なる JVM 間でセッションを共有できるようにします。複数のプロセスから統計情報を収集する間、Web アプリケーションの MBean は、個々の MBean にセッションを提供します。個々の MBean の Web アプリケーションセッション統計情報を参照しても、実際のセッション数を確認することはできません。</p>
6394715	<p>Web コンテナが、無効化された Web アプリケーションの MBean オブジェクトを削除する。</p> <p><code>server.xml</code> ファイル内の <code><enabled></code> 要素を <code>false</code> に設定することで Web アプリケーションを無効にすると、Web コンテナはその Web アプリケーションの MBean を削除します。したがって、そのアプリケーションは閉じた Web アプリケーションまたは削除済みの Web アプリケーションとして扱われます。無効化されたオブジェクトは削除されるため、統計情報も失われます。</p>
6419070	JNDI リソースの作成が成功したときに、詳細度のもっとも高いログレベルでもエラーログに情報が記録されない。
6422200	<p>com.sun.org.apache.xerces.internal.jaxp.DocumentBuilderImpl.parse が 1 バイトの読み取りを行う。</p> <p><code>server.xml</code> ファイルを読み取るときに、XML のバージョン番号とエンコーディングを含む先頭行は、一度に 1 バイトずつ読み取られます。</p>
6440064	サーブレットコンテナが、仮想サーバーごとにスレッドを 1 つずつ作成する。
6501184	REQ_EXIT によって <code>javax.servlet.ServletException</code> が発生する。

ローカリゼーション

次の表に、Web Server のローカライズされたバージョンにおける既知の問題の一覧を示します。

表12 ローカリゼーションにおける既知の問題

バグID	説明
6543814	複数バイト文字列には検索フィルタ「*」が正常に機能しない。
5046634	<p>Web Server 7.0 には use-responseCT-for-headers に相当する機能がない。</p> <p>応答ヘッダーエンコードは、web-app/sun-web.xml ファイルの構成パラメータ use-responseCT-for-headers の値を yes、true、on のいずれかに設定すると、web-app レベルで有効になります。</p> <p>たとえば、応答ヘッダーエンコードを次のように設定します。</p> <pre><sun-web-app> <parameter-encoding form-hint-field="j_encoding"/> <property name="use-responseCT-for-headers" value="true" /> <session-config> <session-manager/> </session-config> <jsp-config/> </sun-web-app></pre>
6716537	ソケット作成のエラーメッセージがローカライズされていない。

表 12 ローカリゼーションにおける既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6775946	<p>125437-15 が日本語ロケールにインストールされている場合に失敗する。</p> <p>patchrm 125437-15 を日本語ロケールにインストールすると、失敗して次のエラーがスローされます。</p> <pre>WARNING: patchrm returned <7></pre> <p>ログファイルへの出力を次に示します。</p> <pre>/var/tmp/dstreAAAW0a4wU/SUNWwbsvr7x/install/checkinstall: XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX 4: '(' unexpected pkgadd: ERROR: checkinstall script did not complete successfully Installation of <SUNWwbsvr7x> partially failed.</pre> <p>この問題は、次のプラットフォームで発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SPARC プラットフォーム - パッチ 119254-40 - 119254-47 が適用済みで、かつ 119254-48 が未適用の Solaris 10 ■ x86 - パッチ 119255-40 - 119255-47 が適用済みで、かつ 119255-48 が未適用の Solaris 10 <p>回避方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関係する上記のパッチのインストールを避けます。これらのパッチがすでにインストールされている場合は、patchrm(1M) コマンドを使ってそれらを削除することで、安全なパッチレベルに戻すことができます。 2. 日本語ロケールでパッチをインストールしないようにします。 詳細については、http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-26-103104-1 を参照してください。 3. Solaris 10 SPARC プラットフォームにパッチ 119254-48 以降を適用し、Solaris 10 x86 プラットフォームにパッチ 119255-48 以降を適用します。

Sun Java Enterprise System

次の表に、Sun Java Enterprise System (Java ES) における既知の問題の一覧を示します。

表 13 Java ES における既知の問題

バグID	説明
6432106	<p>Web Server のアップグレード後、Sun Java System Portal Server の検索で例外がスローされる。</p> <p>Web Server を Java ES 4 から Java ES 5 にアップグレードすると、Portal Server の検索機能が例外をスローします。</p> <p>回避方法</p> <p>注 - 既存の libdb-3.3.so および libdb_java-3.3.so ライブラリファイルを、Web Server の非公開ディレクトリ以外の適切な場所に移動します。Portal Server ライブラリを適切な場所に移動したら、そのパスを以下の手順で <code><libdb-3.3.so path></code>: <code><libdb_java-3.3.so path></code> に指定する必要があります。</p> <p>Solaris プラットフォームで、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> libdb-3.3.so および libdb_java-3.3.so ファイルを、Web Server 6.1 の lib ディレクトリから適切な場所にコピーします。 <p>注 - HP-UX の場合、ファイルは libdb-3.3.sl と libdb_java-3.3.sl です。Windows の場合、ファイルは libdb-3.3.dll と libdb_java-3.3.dll です。</p> <p>注意 - Web Server 7.0 の非公開ディレクトリ (lib ディレクトリなど) にライブラリファイルをコピーしないでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <code>/portal_libraries</code> という名前でディレクトリを作成します (mkdir)。ライブラリファイル libdb-3.3.so および libdb_java-3.3.so を <code>/portal_libraries</code> にコピーします。 wadm コマンドを使用して、ライブラリファイルの場所を Web Server に通知します。 次の管理 CLI コマンドを入力して、現在のネイティブなライブラリパス設定を取得します。 <pre>get-jvm-prop -user=admin --config=hostname native-library-path-prefix</pre> 出力を保存します。 次の管理 CLI コマンドを入力して、コピーした libdb-3.3.so および libdb_java-3.3.so のパスを、既存のネイティブなライブラリパスに追加します。 <pre>set-jvm-prop --config=hostname native-library-path-prefix=<existing native library-path>:</portal-libraries-path></pre> ここで、<code>portal-libraries-path</code> は、手順 1 で libdb-3.3.so および libdb_java-3.3.so ファイルをコピーした場所です。 <pre>get-jvm-prop</pre> コマンドを実行しても結果または出力が得られない場合は、コマンドプロンプトで <code>native-library-path-prefix</code> を次のように設定します。 <pre>native-library-path-prefix=</portal-libraries-path></pre> 注 - Windows プラットフォームの場合は、次のように「;」を <code>native-library-path-prefix</code> パラメータの区切り文字として使用します。 <pre>native-library-path-prefix= <existing native library path>;<portal-libraries-path></pre> Windows 以外のプラットフォームの場合は、次のように「:」を <code>native-library-path-prefix</code> パラメータの区切り文字として使用します。 <pre>native-library-path-prefix=<existing native library path>:<portal-libraries-path></pre> 次のコマンドを入力して、変更後の構成を配備します。 <pre>deploy-config [--user=admin-user] config-name</pre>

表 13 Java ES における既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6504178	移行ログが「 root is not a valid user 」という間違っただメッセージを Java ES 5 上で報告する。 UNIX プラットフォームで Java ES 4 から Java ES 5 にアップグレードしているときに、移行ログファイルが WARNING: "root is not a valid user" と報告します。そのホストでは「 root 」ユーザーは有効なので、このメッセージは間違っています。
6453037	Web Server の起動時に、多数の警告メッセージや情報メッセージが、ログファイルに送られずに標準出力に表示される。

Web Server のドキュメント

Web Server のドキュメントセット

Web Server のドキュメントセットでは、Web Server をインストールおよび管理する方法について説明しています。Web Server のドキュメントの URL は <http://docs.sun.com/coll/1653.9> です。

Web Server への導入としては、次の表に示されている順序でドキュメントを参照してください。

表 14 Web Server のドキュメント

ドキュメントのタイトル	内容
『Documentation Center』	タスク別、テーマ別に編成された Web Server マニュアルのトピック
『Release Notes』	<ul style="list-style-type: none"> ■ ソフトウェアと文書に関する最新情報 ■ サポートされているプラットフォームと、Web Server をインストールするためのパッチ要件
『Installation and Migration Guide』	<p>以下のインストールおよび移行作業の実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Web Server とその各種コンポーネントのインストール ■ Sun ONE Web Server 6.0 または Sun Java System Web Server 6.1 から Oracle iPlanet Web Server 7.0 へのデータの移行

表 14 Web Server のドキュメント (続き)

ドキュメントのタイトル	内容
『Administrator's Guide』	<p>以下の管理作業の実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 管理およびコマンド行インタフェースの使用 ■ サーバー環境の設定 ■ サーバーインスタンスの使用 ■ サーバーアクティビティの監視およびログ ■ サーバー保護のための証明書および公開鍵暗号の使用 ■ サーバー保護のためのアクセス制御の設定 ■ Java Platform, Enterprise Edition (Java EE) セキュリティー機能の使用 ■ アプリケーションの配備 ■ 仮想サーバーの管理 ■ パフォーマンスニーズに合わせたサーバー作業負荷の定義およびシステムのサイズ決定 ■ サーバードキュメントのコンテンツと属性の検索、およびテキスト検索インタフェースの作成 ■ コンテンツ圧縮のためのサーバー設定 ■ WebDAV を使用した Web 発行およびコンテンツオーサリングのためのサーバー設定
『Developer's Guide』	<p>以下を実行するためのプログラミングテクノロジーおよび API の使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Web Server の拡張と変更 ■ クライアント要求に応じたコンテンツの動的生成、およびサーバーのコンテンツの変更
『NSAPI Developer's Guide』	カスタム NSAPI (Netscape Server Application Programmer's Interface) プラグインの作成
『Developer's Guide to Java Web Applications』	Web Server での Java サブレットおよび JavaServer Pages (JSP) テクノロジーの実装
『Administrator's Configuration File Reference』	設定ファイルの編集
『Performance Tuning, Sizing, and Scaling Guide』	パフォーマンスを最適化するための Web Server のチューニング
『Troubleshooting Guide』	Web Server のトラブルシューティング
『CLI Reference Manual』	CLI によって Web Server を管理できる管理コマンド

ドキュメント、サポート、およびトレーニング

Oracle Web サイトには、次の追加リソースに関する情報が用意されています。

- ドキュメント (<http://docs.sun.com/>)
- サポート (<http://www.sun.com/support/>)
- トレーニング (http://education.oracle.com/pls/web_prod-plq-dad/db_pages.getpage?page_id=315)

Oracle 製品ドキュメントの検索

Oracle 製品ドキュメントの検索には、docs.sun.com Web サイトからだけでなく検索エンジンも使用することができ、その場合は検索フィールドに次の構文を入力します。

```
search-term site:docs.sun.com
```

たとえば、「proxy」を検索するには、次のように入力します。

```
proxy site:docs.sun.com
```

検索に java.sun.com、www.sun.com、developers.sun.com など他の Oracle Web サイトも含めるには、「docs.sun.com」の代わりに「sun.com」を検索フィールドに入力します。

サードパーティー Web サイトの参照

このマニュアルでは、サードパーティーが提供している URL で関連する追加情報を参照します。

注 - このマニュアル内で引用するサードパーティーの Web サイトの可用性について Oracle は責任を負いません。こうしたサイトやリソース上の、またはこれらを通じて利用可能な、コンテンツ、広告、製品、その他の素材について、Oracle は推奨しているわけではなく、Oracle はいかなる責任も負いません。Oracle は、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイトから利用可能であるコンテンツ、製品、サービスのご利用あるいは信頼によって、あるいはそれに関連して発生するいかなる損害、損失、申し立てに対する一切の責任を負いません。

Web Server の以前のリリースでの諸機能および拡張機能

この節では、次のリリースでの諸機能および拡張機能を一覧表示します。

- [40 ページの「7.0 Update 8 の諸機能および拡張機能」](#)
- [41 ページの「7.0 Update 7 の諸機能および拡張機能」](#)
- [44 ページの「Update 6 6 の諸機能および拡張機能」](#)
- [44 ページの「7.0 Update 5 の諸機能および拡張機能」](#)
- [45 ページの「7.0 Update 4 の諸機能および拡張機能」](#)
- [46 ページの「7.0 Update 3 の諸機能および拡張機能」](#)
- [46 ページの「7.0 Update 2 の諸機能および拡張機能」](#)
- [49 ページの「7.0 Update 1 の諸機能および拡張機能」](#)
- [51 ページの「7.0 の諸機能および拡張機能」](#)

7.0 Update 8 の諸機能および拡張機能

Web Server 7.0 Update 8 には、セキュリティーの脆弱性に関する次の修正が含まれています。

Bug 6916389 では、Sun Java System Web Server に対する WebDAV 拡張機能でのバッファオーバーフローの脆弱性について説明します。これらの問題により、リモートクライアントが Web Server のクラッシュを発生させ、サービス拒否 (DoS) の状況を作り出すことができます。また、これらの問題により、リモートの無許可ユーザーが昇格した特権を獲得し、機密情報を含むファイルにアクセスして変更を加えることができます。

Bug 6916390 では、Sun Java System Web Server に対する WebDAV 拡張機能での書式文字列の脆弱性について説明します。これらの問題により、リモートクライアントが Web Server のクラッシュを発生させ、サービス拒否 (DoS) の状況を作り出すことができます。また、これらの問題により、リモートの無許可ユーザーが昇格した特権を獲得し、機密情報を含むファイルにアクセスして変更を加えることができます。

Bug 6916391 では、Sun Java System Web Server のダイジェスト認証方法で起きるバッファオーバーフローの問題について説明します。この問題により、リモートの無許可ユーザーが Web サーバーをクラッシュさせ、サービス拒否 (DoS) の状況を作り出すことができます。これらの問題が原因となって、昇格した特権で任意のコードが実行されてしまう可能性もあります。

Bug 6916392 では、Sun Java System Web Server の HTTP TRACE 機能で起きるヒープオーバーフローの問題について説明します。この問題により、リモートの無許可ユーザーが Web サーバーをクラッシュさせ、サービス拒否 (DoS) の状況を作り出すことができます。これらの問題が悪用され、機密情報への無許可アクセスを許してしまう可能性もあります。

7.0 Update 7 の諸機能および拡張機能

Web Server 7.0 Update 7 では Kerberos/SPNEGO のサポートが導入されています。このリリースでは、gssapi と呼ばれる新しい ACL 認証方法が導入されています。gssapi 認証方法は Kerberos ユーザーリポジトリと連携します。このリリースでは、gssapi 認証方法での使用に適した kerberos 型の auth-db も導入されています。

Kerberos 認証の設定については、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide』の「Working With the Authentication Database」を参照してください。

注 - Solaris 上の Kerberos 対応 Web Server は、Windows 2003 上の IE や RHEL 5.3 上の Firefox などのクライアントとの組み合わせでテストされています。

Web Server 7.0 Update 7 は Windows 2008 SP2 32 ビット (x86) Enterprise Edition をサポートします。

Web Server 7.0 Update 7 には JDK 6 が含まれています。管理サーバーのパフォーマンスが向上しています。

Web Server 7.0 Update 7 には、脆弱性を修正する新しい Xerces C++ パッチが統合されています。詳細は、<http://www.cert.fi/en/reports/2009/vulnerability2009085.html> を参照してください。

注 - Web Server 7.0 Update 7 では、Update 6 で誤って導入された LDAP 認証における回帰 (6888100) が解決されています。LDAP 認証を使用するすべての顧客に Update 7 へのアップグレードをお勧めします。

非推奨のプラットフォーム

注 - Solaris 8 および Windows 2000 の各プラットフォームは非推奨です。これらのプラットフォームは、Web Server 7.0 Update 9 以降ではサポートされなくなる予定です。

SSL/TLS の脆弱性の修正 (CVE-2009-3555)

Web Server 7.0 Update 7 がアップグレードされ、SSL/TLS の再ネゴシエーションに関する脆弱性 (<http://web.nvd.nist.gov/view/vuln/detail?vulnId=CVE-2009-3555>) への対策が施された NSS 3.12.5 が含まれるようになりました。

この脆弱性は、現在の SSL/TLS 再ネゴシエーションプロトコル定義の不備によるものです。Web Server 実装のバグではありません。そのような理由により、この脆弱性に対する実装レベルの修正は提供されません。Web Server を攻撃から守るための唯一の回避方法は、再ネゴシエーションを完全に無効化することです。

したがって、Web Server 7.0 Update 7 では SSL/TLS 再ネゴシエーションのすべての使用が無効になっています。クライアントまたは Web Server のどちらかが既存の SSL/TLS セッションで再ネゴシエーションをトリガーしようとする、接続は失敗します。

SSL/TLS 接続が最初に確立されたあと、しばらく時間が経ってからクライアント証明書を取得する目的には、再ネゴシエーションを使用するのが一般的でした。現在では、Web アプリケーションがこの方法でクライアント証明書を取得しようとしても失敗します。

初期の接続ハンドシェイクの間にクライアント証明書を取得する処理は、現在も正常に機能します。このモードは、server.xml で client-auth 要素を「required」に設定することによって設定できます。

```
<http-listener>
  <ssl>
    <client-auth>required</client-auth>
  </ssl>
</http-listener>
```

Web Server 7 の将来のアップデートでは、IETF が新規のプロトコル拡張の設計を確定した時点で速やかに、安全な再ネゴシエーションプロトコルを実装する予定です。NSS_SSL_ENABLE_RENEGOTIATION=1 のように環境変数を設定することにより、脆弱性のある SSL/TLS 再ネゴシエーション機能を再び有効にすることが可能です。このモードは CVE-2009-3555 で説明されている攻撃に対して脆弱であることが確認されています。

Java SE 5.0 および 6.0 のサポート

Web Server は、32 ビット版の Java Platform, Standard Edition (Java SE) 5.0 と Java Platform, Standard Edition (Java SE) 6 をサポートします。64 ビット版の Web Server に対しては、64 ビット版の Java Development Kit (JDK) ソフトウェアサポートが利用可能になっています。

Solaris、Linux、および Windows では、JDK 6.0 Update 17 が Web Server 7.0 Update 8 リリースの一部として提供されます。

次の表に、さまざまなプラットフォームでサポートされている JDK バージョンの一覧を示します。

表 15 サポートされている JDK バージョン

オペレーティングシステム	サポートされている Java SE バージョン	Web Server に同梱されているかどうか	64 ビットのサポート (あり/なし)
Solaris SPARC	1.5.0_22	いいえ	はい
	1.6.0_17	はい	

表 15 サポートされている JDK バージョン (続き)

オペレーティングシステム	サポートされている Java SE バージョン	Web Server に同梱されているかどうか	64 ビットのサポート (あり/なし)
Solaris x86/AMD、AMD64	1.5.0_22	いいえ	はい
	1.6.0_17	はい	
Linux (32 ビット)	1.5.0_22	いいえ	いいえ
	Linux (64 ビット)	1.6.0_17	はい
Windows	1.5.0_22	いいえ	いいえ
	1.6.0_17	はい	
HP-UX	1.5.0.16 (1.5.0.12-21_mar_2008_11_52)	いいえ	いいえ
	1.6.0.04		
AIX	1.5.0 pap32dev-20080315 (SR7)	いいえ	いいえ
	1.6.0 pap3260sr2-20080416_01(SR1)		

インストール時には、JDK の有効なパスを指定する必要があります。製品に同梱されていない JDK バージョンを使用するには、次の場所からソフトウェアをダウンロードします。

JDK Version 1.6.0: <http://java.sun.com/javase/downloads/index.jsp>

JDK Version 1.5.0: http://www.hp.com/products1/unix/java/java2/jdkjre5_0/index.html

AIX プラットフォーム上で JDK 1.5.0 を使用すると、管理サーバーが起動に失敗し、「管理サーバーの証明書データベースを検出/オープンできません」というエラーメッセージが表示される可能性があります。これは、インストールされた JDK の制限されたセキュリティポリシーと、キーサイズの制限が原因です。

SDK のセキュリティ情報の詳細については、<http://www.ibm.com/developerworks/java/jdk/security/50/> を参照してください。

この問題を解決するには、「IBM SDK ポリシーファイル」をクリックして制限されていないセキュリティポリシーをダウンロードします。ダウンロードした ZIP ファイルを展開すると、2つの JAR ファイルが JRE ディレクトリ (jre/lib/security/) 内に配置されます。

Update 6 6 の諸機能および拡張機能

Web Server 7.0 Update 6 は、Web Server 7.0 のアップデートリリースです。Web Server 7.0、Web Server 7.0 Update 1、Update 2、Update 3、Update 4、Update 5 リリースの諸機能および拡張機能に加えて、Web Server 7.0 Update 6 リリースでは、次のような付加価値のある諸機能および拡張機能が製品に導入されています。

新機能および拡張機能については、次の節で説明します。

Web Server のバイナリロギングの詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Performance Tuning, Sizing, and Scaling Guide](#)』を参照してください。

Sun Java System Web Server 7.0 Update 6 には新しい NSS (Network Security Services) 3.12.3 が組み込まれています。このバージョンの NSS では、[CVE-2009-2404](#) のセキュリティティー管理が修正されています。

詳細については、[NSS 3.12.3 Release Notes \(http://www.mozilla.org/projects/security/pki/nss/nss-3.12.3/nss-3.12.3-release-notes.html\)](http://www.mozilla.org/projects/security/pki/nss/nss-3.12.3/nss-3.12.3-release-notes.html) を参照してください。前出のドキュメントには、このバージョンで追加された環境変数の詳細情報が含まれています。

Sun Java System Web Server 7.0 Update 6 には、NSS 3.12.3 と NSPR 4.7.4 バージョンの両方が含まれます。

Sun Java System Web Server 7.0 Update 6 は、Solaris 8 Branded Zones をサポートします。

「[44 ページの「7.0 Update 5 の諸機能および拡張機能」](#)」も参照してください。

7.0 Update 5 の諸機能および拡張機能

Web Server 7.0 Update 5 は、Web Server 7.0 のアップデートリリースです。Web Server 7.0、Web Server 7.0 Update 1、Update 2、Update 3、Update 4 リリースの諸機能および拡張機能に加えて、Web Server 7.0 Update 5 リリースでは、次のような付加価値のある諸機能および拡張機能が製品に導入されています。

新機能および拡張機能については、次の節で説明します。

[44 ページの「バイナリロギング」](#)

バイナリロギング

バイナリロギングは、Sun Java System Web Server 7.0 Update 5 で導入された機能です。この機能を使用すると、サーバー上でホストされているすべての Web サイトの未フォーマットバイナリログデータを 1 つのログファイルに含めて、サーバー情報を格納することができます。これにより、ロギングで使用されるシステムリソースの利用率が最小化されるため、詳細なログ情報を記録しつつ、パフォーマンスおよび拡張性が改善される場合があります。

7.0 Update 4 の諸機能および拡張機能

Web Server 7.0 Update 4 は、Web Server 7.0 のアップデートリリースです。Web Server 7.0、Web Server 7.0 Update 1、Update 2、Update 3 リリースの諸機能および拡張機能に加えて、Web Server 7.0 Update 4 リリースでは、次のような付加価値のある諸機能および拡張機能が製品に導入されています。

新機能および拡張機能については、次の節で説明します。

[45 ページの「REQUEST_URI と SCRIPT_FILENAME のサポート」](#)

[45 ページの「default-sun-web.xml のサポート」](#)

[45 ページの「OpenSolaris 2008.11 のサポート」](#)

REQUEST_URI と SCRIPT_FILENAME のサポート

この Web Server 更新リリースでは、CGI および FastCGI サブシステムに環境変数 REQUEST_URI および SCRIPT_FILENAME が追加されています。これらの変数は、Apache の CGI と FastCGI の両方でデフォルトに設定されており、WordPress を含む多くの PHP アプリケーションで使用されます。

これらの変数に関する問題については、[24 ページの「コア」の問題 ID 6785490](#) を参照してください。

default-sun-web.xml のサポート

Web Server Update 4 リリースでは、default-sun-web.xml のサポートが提供されています。管理サーバーの LDAP 認証では default-sun-web.xml のサポートが必要であり、これによりグループ ID の構成が可能になります。

OpenSolaris 2008.11 のサポート

Web Server Update 4 リリースでは OpenSolaris 2008.11 のサポートが提供されています。OpenSolaris 2008.11 は OpenSolaris オペレーティングシステムの最新リリースであり、ユーザー、開発者、配備担当者にとって強力、安全で、安定性、高拡張性を実現する完全なオペレーティング環境を提供します。

パッケージ要件

Sun Java System Web Server 7.0 Update 4 以上を OpenSolaris OS にインストールするには、次の追加 IPS パッケージをリポジトリからインストールする必要があります。

- SUNWpkgcmds
- SUNWmfrun
- java-dev

7.0 Update 3 の諸機能および拡張機能

Web Server Update 3 は、Web Server 7.0 へのアップデートリリースです。Web Server 7.0 および Web Server 7.0 Update 1、Update 2 リリースの諸機能および拡張機能に加えて、Web Server 7.0 Update 3 リリースでは、次のような付加価値のある諸機能および拡張機能が製品に導入されています。

新機能および拡張機能については、次の節で説明します。

[46 ページの「AIX プラットフォームのサポート」](#)

[46 ページの「Web アプリケーションの自動配備」](#)

AIX プラットフォームのサポート

Web Server Update 3 リリースでは、AIX 5.3 および 6.1 プラットフォームのサポートが提供されています。

Web アプリケーションの自動配備

この Web Server アップデートリリースで導入された自動配備機能を使えば、指定されたディレクトリにコピーするだけで、1つ以上の Web アプリケーションを配備できます。サーバーは、Web アーカイブ形式 (war ファイル)、または Web アーカイブを展開したディレクトリ内の Web アプリケーションを自動配備します。

Web Server の自動配備機能の詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Developer's Guide to Java Web Applications](#)』の「[Auto-Deploying Web Applications](#)」を参照してください。

7.0 Update 2 の諸機能および拡張機能

Web Server Update 2 は、Web Server 7.0 のアップデートリリースです。Web Server 7.0、Web Server 7.0 Update 1 リリースの諸機能および拡張機能に加えて、Web Server 7.0 Update 2 リリースでは、次のような付加価値のある諸機能および拡張機能が製品に導入されています。

新機能および拡張機能については、次の節で説明します。

[47 ページの「PKCS11 バイパスのサポート」](#)

[47 ページの「サービス管理機能 \(SMF\) のサポート」](#)

[47 ページの「非同期アクセラレータキャッシュのサポート」](#)

[48 ページの「拡張された Web コンテナ」](#)

[48 ページの「改善された管理エクスペリエンス」](#)

49 ページの「[Red Hat 4.0 64 ビットのサポート](#)」

49 ページの「[NetBeans 6.5 IDE のサポート](#)」

PKCS#11 バイパスのサポート

この Web Server アップデトリリースには、SSL/TLS 処理の一部で PKCS#11 層をバイパスするよう NSS に指示するオプションが導入されています。PKCS#11 層をバイパスすると、パフォーマンスが向上します。デフォルトでは、PKCS#11 層はバイパスされません。サーバーの起動時に、サーバーはサーバーキーを格納している各トークンに問い合わせ、各トークンが PKCS#11 のバイパスをサポートできることを確認します。いずれのトークンもバイパスをサポートできない場合は、バイパスは無効になります。したがって、PKCS#11 のバイパスによるパフォーマンス向上の利点を最大限に活用するために、ユーザーによる操作は必要ありません。サーバーではバイパスが自動的に活用され、トークンが現在の構成で使用できない場合は自動的にバイパスが無効になります。詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Configuration File Reference](#)』を参照してください。

Web Server では、バイパスを有効または無効にするためのコマンド行インタフェース (CLI) および管理コンソールのサポートが提供されています。管理コンソールまたは CLI を使用して、PKCS#11 バイパスを有効または無効にする方法の詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide](#)』の「[To Enable and Bypass PKCS#11 Tokens](#)」を参照してください。

サービス管理機能 (SMF) のサポート

この Web Server アップデトリリースは、Java プラットフォーム向けの Solaris 10 サービス管理機能 (SMF) と統合されています。SMF は、Solaris Operating System の新機能で、各 Solaris システムのサービスおよびサービス管理のための基盤となる、統一されたモデルを作成します。また、Solaris 用に長時間動作するアプリケーションサービスを定義、配信、および管理するメカニズムです。サービスはサービスマニフェスト (サービスおよびそのサービスに関連付けられたインスタンスを記述する XML ファイル) で定義されます。

Web Server における SMF サポートの詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide](#)』の「[Integrating Service Management Facility for the Java Platform with Web Server](#)」を参照してください。

非同期アクセラレータキャッシュのサポート

この Web Server のリリースでは、アクセラレータキャッシュから非同期に処理できる要求の処理がサポートされています。その結果、サーバーのパフォーマンスが向上します。付加価値のある機能は、次のとおりです。

- 動的再構成の処理
- 非同期キャッシュをオフにするための AsyncAccelerator フラグが `magnus.conf` に導入された

- 要求が非同期アクセラレータから統計までで処理される
- 要求が非同期アクセラレータで処理されるときにアクセスログの書き込みをバッチ処理する

拡張された Web コンテナ

この Web Server アップデートリリースでは、例外スタックトレースまたは JSP コンパイラエラーをブラウザに表示する機能が導入されています。以前の Web Server のリリースでは、要求時にサーブレットコンテナで例外が発生すると、内部アプリケーションの詳細は表示せずにクライアントで「サーバーエラー」が表示されます。この機能が有効と無効のいずれの場合でも、常に例外がエラーログに記録されます。

注-デフォルトでは、例外スタックトレースまたは JSP コンパイラエラーをブラウザに表示する機能は無効になっています。set-servlet-container-prop コマンドを使用するか、または管理コンソールの「サーブレットコンテナ」タブにある「表示例外」チェックボックスを使用すると、この機能を有効化できます。この機能は、開発の目的で役立ちます。本番稼動システムでは、この機能を無効にすることをお勧めします。

改善された管理エクスペリエンス

この Web Server のリリースでは、次の主要な機能が導入されたことにより管理エクスペリエンスが改善されました。

配備済み構成のロールバックのサポート

Web Server では、配備済みの構成のロールバックがサポートされています。現在、Web Server 管理では、管理者はすべての配備済み構成で自動的にバックアップを取得できます。管理 CLI を使用すると、バックアップの一覧表示および指定したバックアップの復元が可能です。

管理サーバーパスワードの設定のサポート

この Web Server のリリースでは、管理サーバーのユーザーパスワードをリセットできます。ただし、この機能は管理サーバーのノードにおいてローカルでのみ動作します。

CA 証明書の管理のサポート

管理コンソールを使用すると、CA 証明書、証明書チェーン、および CRL のインストール、削除、フィルタが可能です。さらに、サーバーは間もなく期限切れになる証明書についてユーザーに警告します。

管理機能の詳細については、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide』を参照してください。

Red Hat 4.0 64 ビットのサポート

このリリースでは、Web Server の 64 ビットスタンドアロンバージョンがサポートされています。Web Server 7.0 64 ビット Linux は、別々のスタンドアロンのみのディストリビューションであり、Web Server 7.0 32 ビット Linux とは共存できません。Web Server 7.0 64 ビット Linux では、64 ビット Java 開発キット 5.0 アップデート 12 以上が必要です。管理サーバーとサーバーインスタンスのどちらも、64 ビットサーバーのみがサポートされています。Linux 用の Web Server 7.0 64 ビットでは、以前のリリースからの移行はサポートされていません。

NetBeans 6.5 IDE のサポート

この Web Server のアップデートリリースでは、NetBeans 6.5 IDE への接続がサポートされているため、ユーザーはアプリケーションの開発、デバッグ、および Web サーバーへの配備を行うことができます。NetBeans 6.5 IDE を使用すると、アップデートセンターから NetBeans のプラグインをダウンロードできます。

注 - Web Server では、NetBeans 6.5 IDE のサポートに加えて、IDE の NetBeans 6.1、6.0、および 5.5.1 バージョンがサポートされています。

7.0 Update 1 の諸機能および拡張機能

Web Server 7.0 Update 1 は、Web Server 7.0 メジャーリリースのアップデートリリースです。

このリリースノートで後述される Web Server 7.0 の諸機能および拡張機能に加えて、Web Server 7.0 Update 1 は Java Platform, Enterprise Edition (Java EE) 5.0 および Web 2.0 テクノロジーをサポートします。これらの諸機能および拡張機能の詳細については、次の節で説明されています。

- [49 ページの「Java Servlet 2.5 および JavaServer Pages \(JSP\) 2.1 のサポート」](#)
- [50 ページの「JavaServer Pages Standard Tag Library 1.2 および JavaServer Faces 1.2 のサポート」](#)
- [50 ページの「アクセラレータキャッシュテクノロジー」](#)
- [50 ページの「FastCGI 設定の管理サポート」](#)
- [51 ページの「NetBeans サポート」](#)
- [51 ページの「管理コンソールでの正規表現設定のサポート」](#)
- [51 ページの「パターンマッチングの GUI および CLI サポート」](#)

Java Servlet 2.5 および JavaServer Pages (JSP) 2.1 のサポート

Web Server には、Java Platform, Enterprise Edition (Java EE) 5 に準拠する、Java Servlet 2.5 および JavaServer Pages (JSP) 2.1 テクノロジー仕様の実装が含まれています。Web Server により、Java テクノロジー標準準拠の Web アプリケーションの設計と配備に必要な柔軟性と信頼性が提供されます。

Java Servlet テクノロジは、Web 開発者に、Web Server の機能を拡張したり既存のビジネスシステムにアクセスしたりするためのシンプルで一貫したメカニズムを提供します。JSP テクノロジを使用することで、簡単にすばやく動的な Web コンテンツを作成することができます。JSP テクノロジによって、サーバーとプラットフォームに依存しない Web ベースのアプリケーションを迅速に開発することが可能になります。

これらのテクノロジについては、<http://java.sun.com/javaee/5/docs/tutorial/doc/> を参照してください。

JavaServer Pages Standard Tag Library 1.2 および JavaServer Faces 1.2 のサポート

JavaServer Pages Standard Tag Library 1.2 は、多くの Web アプリケーションに共通するコア機能をカプセル化したカスタムタグを提供します。JSP 標準タグライブラリには、繰り返しや条件などの構造にかかわる一般的なタスクのサポートが含まれています。XML ドキュメントを操作するためのタグ、国際化タグ、および SQL タグも提供されています。また、既存のカスタムタグを JSP 標準タグライブラリタグに統合するためのフレームワークも提供しています。

Web Server は JavaServer Faces テクノロジーをサポートします。JavaServer Faces は Web アプリケーションを構築するためのユーザーインタフェースフレームワークです。

これらのテクノロジについては、<http://java.sun.com/j2ee/1.4/docs/tutorial/doc/index.html> を参照してください。

アクセラレータキャッシュテクノロジ

Web Server には、サイズの小さいファイルの伝送速度を上げるアクセラレータキャッシュテクノロジが新たに組み込まれています。アクセラレータキャッシュは自動的に有効になるため、設定する必要はありません。詳細については、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Performance Tuning, Sizing, and Scaling Guide』の「File Cache Statistics Information」を参照してください。

FastCGI 設定の管理サポート

単一の FastCGI アプリケーションの設定は、管理コンソールでもコマンド行インタフェース (CLI) でも行えます。また、設定ファイルを使用して Web Server で FastCGI を設定することもできます。

複数の FastCGI アプリケーションを設定するには、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide』の「Configuring Multiple FastCGI Applications」を参照してください。

NetBeans サポート

Web Server が提供するプラグインを使えば、NetBeans 統合開発環境 (IDE) と統合して Web アプリケーションの配備やデバッグを行えるようになります。NetBeans は、標準コンポーネントを使って Java Platform Enterprise Edition (Java EE) ベースの Web アプリケーションを作成するための、完全な開発環境です。

このプラグインは、Web アプリケーションの配備のほかに、次のアクティビティもサポートします。

- サーバーインスタンスの開始や停止など、インスタンスの管理
- アプリケーションの有効化または無効化
- JDBC リソースや JDBC 接続プールなど、サーバー全体のリソースの作成

NetBeans については、<http://www.netbeans.org/kb/index.html> を参照してください。

Web Server での NetBeans の使用方法の詳細については、<http://webserver.netbeans.org> を参照してください。

管理コンソールでの正規表現設定のサポート

Web Server は、管理コンソールを使用して `obj.conf` ファイル内に正規表現を作成するための機能を提供します。ただし、管理コンソールで作成する正規表現は、URL リダイレクトの `<If>..<</If>` 条件の形式に限定されます。

管理コンソールを使用して正規表現を作成する方法の詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide](#)』を参照してください。

パターンマッチングの GUI および CLI サポート

Web Server は、管理コンソールおよび管理 CLI を使用して URI、URI プレフィックス、URI ワイルドカードパターンのプロパティを設定するための機能を提供します。

管理コンソールを使用して URI パターンプロパティを設定する方法の詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide](#)』を参照してください。

CLI コマンドを使用して URI パターンプロパティを設定する方法の詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 CLI Reference Manual](#)』を参照してください。

7.0 の諸機能および拡張機能

Solaris、SPARC、および AMD64 プラットフォーム上で、Web Server を 64 ビットアプリケーションとして実行するように設定できます。

Web Server は、包括的なコマンド行インタフェースのサポート、統合された構成、ECC (Elliptic Curve Cryptography) のサポートによって強化されたセキュリティ、およびクラスタリングのサポートを提供します。また、これには堅牢な組み込み移行ツールも付属していて、Web Server 6.0 や Web Server 6.1 から Web Server 7.0 にアプリケーションと構成を移行する際に役立ちます。

Oracle iPlanet Web Server には次の新機能が含まれています。

- 52 ページの「JMX ベースの管理インフラストラクチャー」
- 52 ページの「再設計された管理サーバーインタフェース」
- 53 ページの「コマンド行インタフェースのサポート」
- 53 ページの「Sun N1 Service Provisioning System のサポート」
- 54 ページの「統合された設定ファイル」
- 54 ページの「JNDI のサポート」
- 54 ページの「Java Database Connectivity および接続プールのサポート」
- 54 ページの「強化されたハードウェアアクセラレータ暗号化のサポート」
- 55 ページの「統合された Java Web Services Developer Pack 2.0 テクノロジー」
- 55 ページの「軽量セッションレプリケーションのサポート」
- 55 ページの「正規表現による URL のリダイレクションおよびリライティング」
- 56 ページの「広範なリアルタイム監視サポート」
- 56 ページの「統合された逆プロキシ」
- 57 ページの「強化されたセキュリティ」
- 57 ページの「楕円曲線暗号方式 (ECC) のサポート」
- 58 ページの「Oracle Java Studio Enterprise のサポート」
- 58 ページの「ローカリゼーションサポート」

JMX ベースの管理インフラストラクチャー

Web Server の管理インフラストラクチャーは、最新の分散 JMX (Java Management Extensions) テクノロジーに基づいています。JMX テクノロジーは、デバイス、アプリケーション、およびサービス駆動型ネットワークの管理と監視のための分散ソリューション、Web ベースソリューション、モジュール化ソリューション、および動的ソリューションを構築するツールを提供します。JMX は、クラスタ化された複数の Web Server 配備をまたがってインスタンス、設定、および Web アプリケーションを管理および監視する際に役立ちます。

再設計された管理サーバーインタフェース

管理サーバーとは、管理アプリケーションの配備先となる、特別に設定された Web Server インスタンスのことです。サーバーファームの各ノード上では、管理インスタンスが1つずつ実行されます。これらのノードのうち、1つのノードが管理サーバーとして設定され、残りは管理ノードとして設定されます。

Web ベースの管理サーバーは、共通のタスクによりアクセスしやすく、かつ複雑なタスクをより実行しやすく再設計されています。

管理サーバーには次の新機能が含まれています。

- もっとも一般的なタスクを実行するための、Web ベースのウィザード
- サーバー設定タスクやサーバー管理タスク向けの包括的なコマンド行インタフェース (CLI) のサポート
- 集約された設定ストア
- Web Server の設定情報を複数のマシン上に配備する機能のサポート。この機能は、サーバーファームやサーバークラスタ内の Web Server をサポートするように拡張されています。
- 組み込み型のサーバークラスタ管理/監視機能

管理インタフェースを使って管理タスクを実行する方法の詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide](#)』を参照してください。

コマンド行インタフェースのサポート

コマンド行インタフェースを使えば、サーバーを容易に設定および管理できます。

管理 CLI の主要機能は次のとおりです。

- スクリプティング用の組み込み Java コマンド言語 (jac1) シェル
- 拡張可能な CLI。これにより、他社製のプラグインを使ってほかのコマンドを追加できるようになります
- ローカルおよびリモートでの管理、設定、および1つ以上のサーバーインスタンスの管理に対するサポート
- 1つ以上の文字を入力してから Tab キーを押すと、コマンドが自動的に補完されます
- シングルモード、シェルモード、およびファイルモードを含む、使いやすい CLI ベースの操作モード

コマンドの詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 CLI Reference Manual](#)』を参照してください。

Sun N1 Service Provisioning System のサポート

Web Server は Sun N1 Service Provisioning Server 5.2 と統合されています。Sun N1 Service Provisioning System はアプリケーションプロビジョニングツールであり、これを使えばカスタムスクリプトを使う必要がなくなります。Web Server は Sun N1 Service Provisioning System と統合されているため、管理者は、データセンター環境やサーバーファームで複数の Web Server をインストールするためのカスタムスクリプトを記述する必要がありません。

統合された設定ファイル

Web Server の設定ファイルは、管理を単純化するために再配置および統合化されています。

以前のバージョンの Web Server では、`userdb` 内の設定ファイルがすべてのインスタンスによって共有されていましたが、それらのファイル内に格納された情報がインスタンス固有のものであることがしばしばでした。Web Server 7.0 では、`userdb` ディレクトリ内の設定ファイルが削除されています。それらの機能は、`config` ディレクトリの `server.xml` ファイル内に組み込まれています。`alias` および `httpacl` ディレクトリの構成ファイルは、`config` ディレクトリに移動されています。これらの変更により、インスタンス固有の `config` ディレクトリ内のインスタンス固有の構成情報は強化されています。

構成ファイルについては、[『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Configuration File Reference』](#) を参照してください。

JNDI のサポート

Java Naming and Directory Interface (J.N.D.I.) API は、さまざまな企業のネーミング/ディレクトリサービスへのシームレスな接続を提供します。

Java Database Connectivity および接続プールのサポート

Web Server は、すぐに使えてシームレスな JDBC (Java DataBase Connectivity)、テクノロジーを提供し、業界標準の JDBC ドライバからカスタマイズされた JDBC ドライバまでを幅広くサポートしています。

Web Server は、JDBC 接続プール、つまり特定のデータベースに対する再利用可能な一連の接続をサポートします。新しい接続をそれぞれ作成するには時間がかかるので、パフォーマンス向上のために、サーバーは利用可能な接続のプールを保持しています。アプリケーションが接続を要求すると、プールから 1 つの接続が取得されます。アプリケーションが接続を閉じると、接続はプールに戻されます。

JDBC 接続プールの作成方法については、[『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide』](#) を参照してください。

強化されたハードウェアアクセラレータ暗号化のサポート

Sun Java System Web Server 7.0 は、Web サーバーでの SSL のパフォーマンスを向上させる Sun Crypto Accelerator 4000、6000 のハードウェアアクセラレータボードをサポートしています。

注 - Web サーバーの使用時に Sun Crypto Accelerator カードを初期化します。Sun Crypto Accelerator の詳細については、<http://docs.sun.com/source/820-4144-11/> の「Sun Crypto Accelerator 6000 Board Version 1.1 User's Guide」を参照してください。

統合された Java Web Services Developer Pack 2.0 テクノロジー

Web Server には、Java Web Services Developer Pack (Java WSDP) 2.0 テクノロジーと XML テクノロジーが含まれています。Java WSDP を使って開発された Web サービスは、`wadm` コマンドを使用することで Web アプリケーションとして Web Server 上に配備できます。

Web Server 7.0 は、XML 暗号、XML デジタル署名などのセキュリティー機能をサポートするほか、メッセージセキュリティープロバイダもサポートします。

Java WSDP 2.0 の詳細については、次のリソースを参照してください。

<http://java.sun.com/webservices/jwsdp/index.jsp>

Java WSDP 2.0 のサンプルは次の場所にあります。これらのサンプルは Web Server 7.0 に配備可能です。

http://java.sun.com/webservices/downloads/2.0_preview_webservicespack.html

軽量セッションレプリケーションのサポート

Web Server は、クラスタベースのセッションレプリケーションおよびフェイルオーバーをサポートします。セッションレプリケーションとフェイルオーバーを使えば、あるサーバーインスタンスから同じサーバークラスタ内の別のインスタンスへ HTTP セッションをレプリケートすることで、Web アプリケーションの可用性を高めることができます。HTTP セッションはそれぞれリモートインスタンス上にバックアップコピーが作成されるため、クラスタ内のあるインスタンスが利用不可能になるようなサーバー障害が発生しても、セッションを問題なく継続できます。

軽量セッションレプリケーションサポートの詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide](#)』を参照してください。

正規表現による URL のリダイレクションおよびリライティング

Web Server 7.0 では、`obj.conf` 設定ファイルにおける正規表現と条件処理のサポートが強化されました。

主な拡張内容は次のとおりです。

- 正規表現のサポート
- 新しい URI で要求を再開するための `restart SAF` (Server Application Function)
- 式、変数、正規表現後方参照など、動的 SAF パラメータのサポート

- 条件処理用の <If>、<ElseIf>、および <Else> タグ
- and、or、および not 演算子を使用した複合条件のサポート
- 要求および応答の本体をリライトするための、sed-request および sed-response フィルタ

これらの新機能を使えば、Apache HTTP サーバーからの mod_rewrite を使って定義できる規則と同様に、柔軟な URL リライティングとリダイレクションの規則を定義できます。mod_rewrite の場合とは異なり、Web Server 7.0 の正規表現と条件処理は要求処理の任意の段階で使用でき、他社製プラグインと合わせて使用することもできます。

正規表現や URL リライト機能の詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Configuration File Reference](#)』を参照してください。

広範なリアルタイム監視サポート

以前のバージョンの Web Server の監視機能に加え、Web Server には次の拡張機能が追加されています。

- サーブレット、JSP、および JSP 標準タグライブラリのコンテナ特性を監視する
- 管理サーバー内からプロセスおよび仮想サーバーの統計情報を監視する
- Solaris 10 プラットフォームのシステム管理エージェントと統合する。Java Enterprise System Monitoring Framework (Java ES Monitoring Framework) と統合されています。このため、Web Server の監視情報が Java ES Monitoring Framework 内で利用可能になります。
- Java Monitoring and Management Console (jconsole) スクリプト、Java ES Monitoring Framework、または JMX (Java Management Extensions) に準拠した任意のクライアントアプリケーションを使用して、監視データに管理 Beans (MBeans) としてアクセスする。

Web Server の監視機能の詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide](#)』を参照してください。

統合された逆プロキシ

Sun Java System Web Server 7.0 は、コアサーバー内に逆プロキシ機能を統合します。

Web サーバーが逆プロキシ機能付きで構成されている場合、これは1つ以上のバックエンドサーバーのプロキシとして動作し、サーバーファーム内の単一のアクセスポイントまたはゲートウェイになります。逆プロキシの設定では、Web サーバーはブラウザクライアントから受信した HTTP 要求を適切なバックエンドサーバーに転送します。バックエンドサーバーからの HTML 応答は、Web サーバーを介してブラウザに返されます。このため、逆プロキシ機能を備えた Web サーバーは、ブラウザに対してバックエンドサーバーの存在を隠します。

Web Server は、逆プロキシを設定するための GUI および CLI サポートを提供しません。

逆プロキシの構成の詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide](#)』の「[Configuring Reverse Proxy in Web Server](#)」を参照してください。

強化されたセキュリティ

Web Server は、データの暗号化と検証、要求の認証、およびサーバープロセスの保護を可能にするさまざまなテクノロジーをサポートしています。セキュリティ機能の主な強化点は、次のとおりです。

- Solaris 10 プラットフォームの暗号化フレームワークのサポート。たとえば、libpkcs11.so には、UltraSPARC T1 プロセッサハードウェアアクセラレーションのサポートが含まれています。
- DoS (Denial of Service) 攻撃に対する保護の強化
- ネイティブ sed(1) ベースの入力フィルタリングを使った、クロスサイトスクリプト保護クロスサイトスクリプトの詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide](#)』の「[Preventing Cross Site Scripting Attacks](#)」を参照してください。
- Web サービスのセキュリティ:
 - IETF XML デジタル署名
 - W3C XML 暗号
- 統合された P3P (Platform for Privacy Preferences) サポート
- Web ベースの分散オーサリングおよびバージョン管理 (Web-based Distributed Authoring and Versioning、WebDAV) アクセス制御のサポート
- LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) auth-db が拡張され、検索式とマッチング属性が設定可能になりました。
- LDAP auth-db は Microsoft Active Directory との相互運用性をサポートします。
- Tomcat またはその他の Java キーストアファイルベースリポジトリからの証明書の移行のサポート
- 動的に適用された証明書失効リスト (CRL) のサポート
- 統合された IPv6 のサポート

楕円曲線暗号方式 (ECC) のサポート

Sun Java System Web Server は常に、RSA キーをサポートしてきました。Web Server 7.0 では、RSA キーを引き続きサポートすることに加え、楕円曲線暗号方式 (ECC) を新たにサポートします。

ECC は、モバイルまたはワイヤレス環境向けの次世代の公開鍵暗号方式です。ECC は、非対称暗号を実行するために、一連のキーの生成、暗号化、および復号化のアルゴリズムに基づいています。

Web Server での ECC の使用方法の詳細については、『[Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide](#)』を参照してください。

Oracle Java Studio Enterprise のサポート

Web Server 7.0 は Oracle Java Studio Enterprise 8.1 をサポートします。Oracle Java Studio ソフトウェアは、Java テクノロジーの開発者にとって強力で拡張可能な IDE であり、NetBeans ソフトウェアに基づき、Java プラットフォームに統合されています。

Web Server 用のプラグインは、次の方法で取得できます。

- Sun Java System Web Server メディアキットの付属 CD から
- Oracle Java Studio の付属 *AutoUpdate* 機能の使用
- Sun Java System Web Server のダウンロードセンターから

注 - Web Server 用の Oracle Java Studio 8.1 プラグインは、ローカル Web サーバーでのみ機能します。つまり、IDE と Web サーバーは、同一マシン上にインストールする必要があります。

Oracle Java Studio 8.1 の Web アプリケーション機能の使用については、次のチュートリアルを参照してください。

<http://developers.sun.com/prodtech/javatools/jsenterprise/learning/tutorials/index.jsp>

Oracle Java Studio 8 の詳細については、次のアドレスにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/software/sundev/jde/>

ローカリゼーションサポート

Web Server は次の言語で使用できます。

- フランス語
- ドイツ語
- スペイン語
- 日本語
- 簡体字中国語
- 繁体字中国語
- 韓国語

Web Server の以前のリリースで解決済みの問題

この節では、次のリリースで修正された重要な問題を一覧表示します。

- 59 ページの「7.0 Update 8 において解決済みの問題」
- 59 ページの「7.0 Update 7 において解決済みの問題」
- 61 ページの「7.0 Update 6 において解決済みの問題」
- 63 ページの「7.0 Update において解決済みの問題」
- 65 ページの「7.0 Update 4 において解決済みの問題」
- 67 ページの「7.0 Update 3 において解決済みの問題」
- 75 ページの「7.0 Update 2 において解決済みの問題」
- 77 ページの「7.0 Update 1 において解決済みの問題」

7.0 Update 8 において解決済みの問題

この節では、Sun Java System Web Server 7.0 Update 8 で解決済みの問題を一覧表示します。

問題 ID	説明
6916391	ダイジェスト認証のバッファオーバーフロー。
6916392	TRACE のヒープオーバーフロー。
6916390	WebDAV 形式文字列のバグ。
6916389	WebDAV のスタックオーバーフロー。
6917879	ヘッダー名が空の TRACE 要求が原因で不正な形式の応答が生成される可能性があります。
6930175	Web Server 7.0 Update 8 は、Windows 2008 Standard Edition Service Pack 2 32-bit(x86) をサポートします。

7.0 Update 7 において解決済みの問題

この節では、Sun Java System Web Server 7.0 Update 7 で解決済みの問題を一覧表示します。

問題 ID	説明
6888100	Web Server 7.0 Update 5 から Update 6 に移行する間、パスワード確認後に再バインドが行われないことにより LDAP 認証が失敗します。
6898371	TLS/SSL プロトコルに重大な脆弱性があります。NSS のアップグレードが必要です。

6811286	サイズの大きい Web アプリケーションが配備されたときに管理 GUI が応答しくくなります。
6849009	Web Server 7.0 Update 4 および Web Server 7.0 Update 5 の管理 GUI または CLI で CertificateMgrUtil を使用して証明書を一覧表示するとき、一覧表示の実行に 60 秒以上の時間がかかることがあります。
6855262	128 個以上の vcpu 使用時に Web Server が FILE を使い切ってしまいます。
6855513	Web Server 7.0 Update 7 で、thread-pool 自動設定アルゴリズムが壊れています。
6857815	Kerberos/SPNEGO のサポートが追加されました。
6867192	Web Server 7.0 Update 7 のドキュメントには、Web サーバーの max-threads、thread-pool queue-size、および keep alive max-connections を設定するための自動設定機能に関する記述が含まれています。
6869991	Xerces C ライブラリに脆弱性があります。
6880214	JDK 5 はサービス終了 (EOSL) の過程にあるため、Web Server 7.0 には JDK 5 の代わりに JDK 6 が含まれる必要があります。
6881339	async 要求がキープアライブスレッドによって中止されるとサーバーがクラッシュします (統計が有効な場合)。
6882830	FORM 認証が行われるアプリケーションのシングルサインオン (SSO) で、JSESSIONIDSSO Cookie が設定されません。
6887782	PR_GetSockName が失敗した場合に Connection::create がエラーを返し、未使用キューと準備完了キューの両方に接続が追加されます。
6741844	Web Server 7.0 で「Invalid Sequence Number」例外がスローされたあとにセッションフェイルオーバーが発生しません。
6763470	ユーザー名に「,」が含まれる場合に Microsoft Active Directory からの LDAP グループ認証が失敗します。
6815996	.htaccess ファイルを含むディレクトリ内のファイルにアクセスしたときに Web Server 7.0 Update 4 (64 ビット) がクラッシュします。
6830258	Web Server が、キープアライブタイムアウトの期限よりもずっと早くキープアライブ接続を閉じます (Linux 向け Specweb で低 QoS)。
6841548	flexlog.cpp コードが最適化されています。
6849198	サーバー側インクルードファイルの URL が、「/」が付加されたあとに正しく機能します。
6857790	CMT システムで、管理サーバーによるスレッドの自動チューニングが大量のリソースを消費します。
6873985	Web Server 7.0 Update 7 のドキュメントには、サポート対象外であり、インデックス作成と検索が不可能なファイル形式の一覧が含まれます。

6875450	Web Server 7.0 Update 4 コアパッチ (SPARC、x86) の SUNW_REQUIRES フィールドにローカリゼーションパッチ「126332-06」が含まれます。
6877764	メッセージ本文がないときに Web Server 7.0 Update 7 が Content-type: text/html を返しません。
6878259	Sun Web Server 7.0 Update 7 で Webstack PHP がサポートされます。
6885643	Web Server 7.0 で classdebuginfo を false に設定しても JDK6 に対して機能しません。
6897071	外部 JDK がインストールされている場合に、Web Server 7.0 Update 6 の管理 GUI でノード部分に何も表示されません。
6567720	Kerberos 認証の有効化をサポートするように管理フレームワークが強化されています。
6853924	Web Server 7.0 Update 7 では、証明書の更新時にキーサイズの変更が可能であるとしています。
6854885	Web Server 7.0 で、管理 GUI を使用して作成された CA 署名付きの証明書が、証明書をリスナーと関連付けていません。

7.0 Update 6 において解決済みの問題

この節では、Sun Java System Web Server 7.0 Update 6 で解決済みの問題を一覧表示します。

問題 ID	説明
6854841	Web Server 7 で sun-web.xml の「classdebuginfo」を設定しようとしても、そうした試みがすべて無視されるようです。
6813426	検索コレクションへの PDF ドキュメントの追加が失敗した際に詳細エラーメッセージがログに記録されるようにすべきです。
6801517	「名前」または「ホスト」フィールドの末尾に空白があると、仮想サーバーの作成が失敗します。
6809090	自己署名付き証明書では、署名アルゴリズムとして SHA1 が使用されるべきです。
6856484	Sun Metaslot 内の証明書の更新中にエラーが発生します。
6847901	Web Server には最新の SASL をバンドルすべきです。
6707244	ロガーを含む Web アプリケーションの配備時に、JVM で競合状態が発生します。
6856472	<request-header-timeout> のデフォルト値を -1 から 30 に変更すべきです。

6826625	checkinstall スクリプト内のローカライズ版パッケージ/パッチ依存関係チェックを削除します。
6781962	Internet Explorer 7 で Favicon が正しく表示されません。
6749879	匿名認証が false に設定された Directory Proxy Server で、LDAP 認証が失敗します。
6806858	(ダイナミックグループ使用時に現れる) ACL の脆弱性により、非正規ユーザーのログインが可能となります。
6811110	LDAP が Directory Server コンシューマになっていると、管理 GUI で LDAP 更新が失敗します。
6832878	管理コンソールで、新しい設定ウィザードのテキストを改善する必要があります。
6801700	要求制限のエラーコードを設定する際に、有効な値に関する説明が何も表示されません。
6814138	PROPFIND で最終更新日付と作成日付が正しく表示されません。
6856456	インストールログファイルの最終行がそのファイル自体を指しています。ログファイルの末尾に、詳細情報の取得先として、同じファイルへの参照があります。
6834762	特定のシナリオで、管理サーバーから「Unable to connect to the node host」エラーが出力されます。
6848803	add-webapps の CLI ページと、管理者ガイドの「Deploying Java Web Applications」というタイトルのページを更新すべきです。
6828720	use-responseCT-for-headers のドキュメントを作成すべきです。
6827940	RHEL5.0 上の Web Server 7.0 での FastCGI suid 環境のサポート
6809081	サンプルアプリケーションのドキュメントで、ant の配備を成功させるには管理サーバーを起動する必要がある旨の説明を追加する必要があります。
6860680	Windows の脆弱性 - ファイル拡張子の末尾に「::\$DATA」を追加すると、JSP ページの内容が公開されてしまいます。
6841507	『Sun Java System Web Server 7.0 U5 Administrator's Configuration File Reference Guide』でのドキュメントの誤字。
6834770	virtual-server-name_obj.conf に関する情報が、ドキュメントにほとんど記述されていません。
6839431	Sun MetaSlot 内の証明書の更新中に ADMIN4159 エラーが発生します。
6842383	FastCGI suid 環境を動作させるために必要な設定に関するドキュメントを、さまざまな OS プラットフォームに対して作成します。
6841454	CA 署名付き証明書の更新中に生成される CSR が、GUI でフォーマットを必要とします。

7.0 Update において解決済みの問題

この節では、Sun Java System Web Server 7.0 Update 5 で解決済みの問題を一覧表示します。

問題 ID	説明
6732548	app-args の値が “a=b” または “c=d” と指定されている場合、create-fastcgi-handler が期待したとおりに動作しない。
6750707	管理 CLI は、マルチバイト文字を含む文字列を受け付けない。
6723824	以前のバージョンの Web Server から Web Server 7.0 Update 3 に移行すると、インスタンスの移行には成功するが、異常な移行ログファイルが生成される。
6764940	obj-https-INSTANCE.conf が obj.conf と異なる。 管理サーバーの GUI または CLI から初めて obj.conf に変更を加えるときに、<https-instance>-obj.conf が作成されます。この状況は、管理サーバーからインスタンス構成に対して初めて変更が加えられる前に、Client タグが追加された場合にのみ発生します。一度 <https-instance>-obj.conf が作成されたあとは、同じ手順を行ってもこの現象は起きません。
6765451	管理サーバーが check-request-limits 関数を obj.conf 内の不正な場所に追加する。 check-request-limits 関数を obj.conf に構成するときは、必ず find-index 関数の前に挿入するようにしてください。
6769410	変数が server.xml から削除されている。 移行済みのインスタンスの CGI 変数名が Null 値の場合は、管理 GUI では保存できません。したがって、server.xml から削除されています。
6772188	Java が無効になっている場合、Web Server 7.0 の管理 GUI で「 BreadCrumbsModel: index out of bounds 1 」というエラーがスローされる。
6709085	管理サーバーの起動に失敗する。 管理ツールではデフォルトの言語を zh_cn に設定できますが、そのあとサーバーが起動されず、次のエラーがスローされます。 config:CONF1104:File /sun/webserver7/https-agc184.PRC.Sun.COM/config/server.xml line 98: Invalid <default-language> value:zh_cn
6759756	管理 GUI を使用して .war ファイルをアップロードしているときに、アクセス権エラーが発生する。
6762245	管理 GUI を使用して新しい構成を作成しているときに空白文字を使用すると、エラーがスローされる。
6777195	NodeMBean の setNodeProperties は常に server-farm.xml を上書きする。上書き中に、ノードのホスト名エントリが小文字に変換される。

6772231	起動、構成の一覧表示、またはインスタンスやノードに直接存在しないアクティビティーの最中に管理サーバーがハングアップする。
6780377	Web Server 7.0 管理サーバーで、send-error SAF の reason パラメータの認識に失敗する。
6793862	管理サーバーで、EV SSL (Extended Validation SSL Server) 証明書の認識に失敗する。
6798954	Web Server はバイナリロギングをサポートするべきである。
6542360	管理サーバーの java-home 設定で、スクリプトを管理する設定が伝播されない。
6781234	Web Server 7.0 で、JSTL tlds および jaxp の使用中に問題が発生する。
6790392	Web Server 7.0 Update 3 で、maxSessions への応答としてエラー応答の代わりに空の画面が表示される。
6768357	HTTP 以外の内部要求に対して vs_get_mime_type などの NSAPI 関数を実行すると、 Web Server がクラッシュする。
6776108	MaxKeepAliveThread 制限を 128 から 256 に増加させる。
6781976	アクセスロギングはパフォーマンスに影響を与えるため、バイナリロギングが必要である。
6806781	%Req->reqpb.clf-request.protocol.version% がバイナリモードで正常に設定されないため、binlog でエラーがスローされる。
6707017	ドキュメントルートにローカライズされたディレクトリが指定されると、 Web Server の設定が失敗する。
6753741	特定の状況において、 Web Server のインストーラで「PatchListener-Solaris-detectPatches-Failed」というエラーがスローされる。
6774822	AIX の場合、unconfigureServer プロセス中に「WARNING: ADMIN2028: Error removing init scripts」という警告メッセージが表示される。
6775953	Netbeans 6.5 で動作するように Web Server プラグインを更新する。
6722375	パッチ 125437-14 および 125438-14 が代替ルートに準拠していない。
6779166	Apache と比較すると、 Web Server 7.0 Update 3 は Windows 上での拡張性が十分でない。
6781147	Web Server 7.0 Update 3 で、日本語エンコーディングで新しい検索イベントを作成しようとするとエラーがスローされる。
6761027	Web Server 7.0 で、ACL 用のワイルドカードによるパターンマッチングが、IP アドレスを使用すると正常に機能しない。
6775403	REQUEST_HEADERS: '/' regular expression が正常に機能しない。
6773327	JSP アプリケーション向けに sendfilev を有効にすると、サーバー応答に失敗する可能性がある。

6775948	<p>nsapi.h 内に include ファイルが存在しない場合、一部の NSAPI モジュールのコンパイル中に警告メッセージがスローされる。</p> <p>回避方法:</p> <p>nsapi.h の前に include <netdb.h> を追加します。</p>
---------	---

7.0 Update 4 において解決済みの問題

次の表に、Sun Java System Web Server 7.0 Update 4 で解決済みの問題の一覧を示します。

問題 ID	説明
6708647	CGI および FastCGI サブシステムで、環境変数 REQUEST_URI および SCRIPT_FILENAME を設定する。
6715164	プラグインの初期化に時間のかかるサーバーインスタンスを開始すると、管理サーバーのプロセスが CPU に高い負荷をかける。
6740996	Reuters IFP との非互換性のために、サーバーがクラッシュする。
6747181	構成の配備および再起動後に、更新された証明書または新しい証明書が使用されない。
6620166	配備されたノードで 2 つの NIC がアクティブであると、セッションフェイルオーバーの動作が不正になる。
6663982	default-sun-web.xml が参照されない。
6707017	ドキュメントルートにローカライズされたディレクトリが指定されると、設定が失敗する。
6708894	新しい仮想サーバーウィザードで ASCII 以外の文字を使用できない。
6712479	ベース DN に UTF8 文字を含む LDAP 認証データベースの使用時に、次のようなエラーが発生する。 ADMIN3143: Base DN 'ou=k?v?nok,dc=red,dc=iplanet,dc=com' does not exist
6713238	ドキュメントルートディレクトリ名の末尾が .war の場合、Web Server 7.0 Update 2 の起動時にエラーが表示される。
6713786	Web Server 7.0 Update 2 から Update 3 にアップグレードすると、不要となった一部のファイルが削除されずに残る。
6714230	Solaris でファイル記述子を解放すると、CgiStub の動作が不安定になる。
6716553	証明書の作成時に特定の国を選択すると、エラーが報告される。
6717187	新しいサーバーの構成時に、状態が正しく参照されない場合がある。

6717328	設定の登録ページに表示されるテキストフィールドが非常に小さい。
6718752	https-<instancename> という名前のファイルが存在する場合、以前の Update リリースからのアップグレードが失敗する。
6721107	新しい Java Enterprise System のインストール時に、管理サーバーが起動しない。
6721193	管理 GUI を使用して Web アプリケーションを配備する際、ファイルがサーバー上に存在すると、ターゲットディレクトリが無視される。
6722701	CONFIGURE_LATER が true に設定されている場合、サイレントインストールが失敗する。 CONFIGURE_LATER=true
6722702	サーバーが、後で設定するモードで構成されている場合、 unconfigureServer が必要になる。
6722727	管理 GUI でサービスを作成する場合、そのサービスがすでに存在する場合でも、新規に作成できる。
6724246	「 Forward Parameters 」を保存する際、管理 GUI に次の不正なエラーメッセージが表示される。 Child 'from_hidden' does not have a registered descriptor in 'editReverseProxyPS1'
6728160	htaccess を使用するとサーバーがクラッシュする可能性がある。
6729296	./admin-server/bin/stopserv の実行中に、 /tmp/admin-server-xxx/configname/extracted/config/server.xml ファイルを含む管理サーバーの一時ディレクトリ /tmp/admin-server-xxx が削除されない。
6731124	要求がサブレットまたはフィルタによりラップされて、静的リソースに転送される場合、不正なエラー HTTP 405 が返される。
6740786	<If> 文のために管理サーバー内の obj.conf ファイルが破壊されることがある。
6714929	SNMP が、 Solaris 10 のデフォルトの tcp_hiwat 設定と互換性がない。
6741649	Update 2 では、 get-perfdump の出力にキープアライブモードのセッションを含めるべきでない。
6743019	フランス語ロケールで管理 GUI を使用する場合、次のエラーメッセージが表示されるが、メッセージに配備時のノード名が含まれない。 The administration server has detected that you have modified some of the instance configuration files on the following nodes: \{0\}.
6751264	フランス語および日本語ロケールの管理 GUI で、登録用の Sun Online アカウントサインアップフォームが正しく表示されない。
6760687	管理サーバーにより、必ずしも最新の証明書が常に表示されない。

6765564	オンラインインストーラのヘルプに、インストーラコンポーネントパネルから削除された言語パックが正しく反映されない。
6766109	CGI Enabled as File Type で新しい構成を作成すると、障害が発生する。
6629611	一部の管理サーバーテーブルの切り替え状態が不正になる。
6633333	リンク先がローカライズされた sun.com サイトにならない。
6608135	HTML ドキュメントのタイトルに A&B のような文字が含まれる場合、エラーが発生して検索エンジンが失敗する。
6705752	管理 GUI でサーバーヘッダーを非表示にできない。
6708548	ドイツ語ロケールで、一貫していない翻訳が提供される。
6709378	説明内のボタンとボタンのラベルが一貫していない。
6709427	logviewer 内の表タイトルの一部が壊れている。
6711035	Web Server パラメータページのフランス語翻訳の一部が削除されている。
6711518	フランス語ロケールでの「 Core Server 」の翻訳が一貫していない。
6712045	ボタンラベルとメッセージ文字列の翻訳は一貫しているべきである。
6723559	パスワードとパスワードの再入力と同じでなくても、登録が許可される。
6733189	wadm cli により、 Web アプリケーションのパスが表示されない。
6754078	日本語の管理 GUI に文字化けしたメッセージが表示される。
6762559	「 Reverse-proxy 」の翻訳が一貫していない。
6763094	フランス語ロケールでの「 fancy 」という語の翻訳が不正である。
6715350	日本語ロケールで、 OLH に無効な文字が含まれる。

7.0 Update 3 において解決済みの問題

次の表に、Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 で解決済みの問題の一覧を示します。

問題 ID	説明
6387762	wadm からシェル変数またはシステム変数にアクセスできない。

4793938	<p>ディレクトリインデックスの代わりに、ユーザーとパスワードの入力ダイアログが表示される。</p> <p>デフォルトでは、ユーザーが認証されないかぎり、Web Server 7.0 はディレクトリインデックスを送信しません。あるディレクトリにアクセスしようとする時、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。これは、Web Server 7.0 のデフォルトのアクセス制御リスト (ACL) が、認証済みユーザーだけにリストアクセス権を許可するためです。</p>
6426116	<p>管理コンソールの「バージョン」ボタンをクリックすると、「ファイルが見つかりません」という警告が管理エラーログに書き込まれる。</p>
6446206	<p>グループ内のある単一ユーザーが削除されたときに、不正なメッセージ「グループは正常に保存されました」が表示される。</p>
6431984	<p>Web Server の PID ファイルと UNIX ドメインソケットは、/tmp ではなく /var/run に格納されるべきである。</p>
6475536	<p>管理サーバーのパスワードをリセットするための明確な手段が存在しない。</p>
6489727	<p>[JESMF CONFORM] CP は停止時には、MfManagedElementServer_stop() を呼び出すべきである。</p>
6493971	<p>サーバーインスタンスの再起動が応答しない場合に管理サーバーがタイムアウトしない。</p> <p>restart-instance コマンドの実行時に、UNIX システム上の管理サーバーは、サーバーインスタンスが再起動されるまで待ちます。インスタンスが正常に再起動されない場合、管理サーバーは要求に応答しません。</p>
6515745	<p>Web Server で SNMP マスターエージェントプロセスが起動に失敗する</p>
6545779	<p>Windows で、system32 ディレクトリに古いバージョンの libnspr4.dll があると wdeploy コマンドが失敗する。</p>

6606243	<p>Web Server インストーラが、管理自己署名付き証明書を IE 証明書タブにインポートする必要がある。</p> <p>ブラウザを使用して管理コンソールにアクセスすると、信頼される認証局で証明書が発行されないことを示すポップアップ (IE6 および Mozilla/Firefox の場合) または警告ページ (IE7 の場合) が表示される場合があります。この原因は、管理サーバーが自己署名付き証明書を使用していることにあります。「管理 GUI ログイン」ページに移動するには、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Mozilla/Firefox の場合、ポップアップウィンドウの「OK」ボタンをクリックします。 ■ Internet Explorer 6 の場合、ポップアップウィンドウの「はい」ボタンをクリックします。 ■ Internet Explorer 7 の場合、ページの「このサイトの閲覧を続行する」リンクをクリックします。 <p>前述の手順では、そのブラウザセッション用の証明書が一時的に許可されます。証明書を永続的に許可するには、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Firefox/Mozilla の場合: ポップアップウィンドウの「今後この証明書を受け入れる」ラジオボタンを選択して、「OK」をクリックします。 ■ Internet Explorer 6.0 の場合: <ol style="list-style-type: none"> 1. ポップアップウィンドウの「証明書の表示」ボタンをクリックします。別のポップアップウィンドウが表示されます。 2. 「証明のパス」タブを選択して、<code>admin-ca-cert</code> を選択します。 3. 「証明書の表示」ボタン、「証明書のインストール...」ボタンの順にクリックします。 証明書インポートウィザードが起動されます。これを使用すると、信頼できるルート証明書データベースに管理 CA 証明書をインポートできます。 ■ Internet Explorer 7 の場合: <ol style="list-style-type: none"> 1. 警告ページの「このサイトの閲覧を続行する」リンクをクリックします。ログインページが表示されます。 2. アドレスバーの横にある「証明書のエラー」リンクをクリックします。警告ウィンドウが表示されます。「証明書の表示」リンクをクリックします。 3. 「Internet Explorer 6 の場合」の項で説明した手順 1 から 3 に従って、信頼できるルート証明書データベースに管理 CA 証明書をインポートします。
6606132	<p>「Sun Metaslot」ピンが設定されていない場合、自己署名付き証明書の作成に失敗する</p>

6709477	<p>IE6 上で GUI 登録リマインダが正しく表示されない</p> <p>IE6 の select 要素は、階層構造の動作に必要な z インデックスをサポートしません。したがって、ドロップダウン (config および vs) にオーバーラップする登録リマインダが1つの階層として存在していても、そのドロップダウンが可視状態のままになります。</p>
6639402	<p>最大ファイル記述子数が 1024 の場合、サーバーで設定された接続キューのサイズが小さすぎる (128)</p> <p>Web Server では、さまざまなコンポーネント用にファイル記述子が予約されています。接続プールキューのサイズ、ファイルキャッシュの最大オープンファイル数、および最大キープアライブ接続数が設定されていない場合、その他のコンポーネント用にファイル記述子を予約したあとに、Web Server によって使用可能な記述子が3つの値の間で分割されます。最大ファイル記述子数のデフォルト値が小さいシステム (Solaris 8 や RHEL など) では、接続プールのサイズが小さい値に設定される場合があります。たとえば、RHEL の場合、最大ファイル記述子数のデフォルト値は1024 です。接続キューのサイズが割り当てられていない場合、Web Server は128 個の接続を接続キューに割り当てます。稼働が多いシステムでは、この値が小さすぎる場合があります。接続のタイムアウトが開始した場合、ユーザーは最大ファイル記述子数をより高い値に設定する必要があります。</p>
6644322	<p>Fastcgistub のメモリーリークにより、Fastcgi サブシステムがハングアップする</p>
6474037	<p>Ubuntu に Web Server をインストールする際の例外。</p> <p>Linux Ubuntu の場合、/bin/domainname が含まれるパッケージはデフォルトで使用できません。Web Server を正常にインストールするには、これらのパッケージをインストールする必要があります。</p> <p>パッケージをインストールするには、次のコマンドを入力します。</p> <pre>sudo apt-get install nis</pre>
6414481	<p>compat-libstdc++ をインストールしないと Web Server をインストールできない。</p>
6641672	<p>compat-libstdc++-33--3* (64 ビット) バージョンがあると、REDHAT ES4.0 Linux 64 ビットのインストールに失敗する</p>
6472668	<p>Windows の場合、Web Server のインストールで -Xrs JVM オプションがデフォルトで使用される</p> <p>回避方法:この修正方法の詳細については、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide』 を参照してください。</p>
6559918	<p>CLI と管理サーバーにバージョンの互換性がない場合、エラーメッセージが不明瞭である。</p> <p>Web Server 7.0 インストールを Web Server 7.0 Update 2 にアップグレードする際には、設定 CLI 全体、管理サーバー、およびすべての管理ノードも必ず Web Server 7.0 Update 2 にアップグレードしてください。これは、Web Server 7.0 管理インタフェースと Web Server 7.0 Update 2 管理インタフェースとの連携動作が正しく行われないからです。</p>

6595795	<p>管理コンソールで、移行したインスタンスに必要な機能が obj.conf ファイルに追加されない。</p> <p>JVM が無効な Web Server 6.0 インスタンスを Web Server 7.0 に移行し、移行したインスタンスを管理コンソールを使用して JVM オプション付きで有効化した場合、そのプロセスでは次の必要な行が obj.conf ファイルに追加されません。</p> <pre>NameTrans fn="ntrans-j2ee" name="j2ee" PathCheck fn="find-index-j2ee" ObjectType fn="type-j2ee" Error fn="error-j2ee"</pre>
6641844	<p>Windows の場合、パッチを使用して Java ES 5 リリースの一部である Web Server 7 から Web Server 7.0 Update 2 リリースにアップグレードしたあとに、サーバーの起動に失敗する。</p>
6644314	<p>セキュリティパッチ 121656-16 は、Java ES 5/U1 における Sun Java System Web Server 7.0 Update 2 Linux パッチに対する必須条件です。</p> <p>ただし、このセキュリティパッチでは循環依存関係が示されるため、いずれのパッチも適用できません。</p>
6640206	<p>既存のインストール内にサンプルアプリケーションが存在しない場合、U2 へのアップグレード時にアップグレードが失敗する。</p> <p>Windows 以外 (Solaris、Linux、HP-UX) で、サンプルアプリケーションを使用せずに Web Server 7.0 または 7.0 Update 1 をインストールしており、Web Server 7.0 Update 2 にアップグレードする場合は、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p>アップグレード中に問題が発生しました。問題を解決するには、次の場所にあるインストールログを確認してください：</p> <pre><install-dir>/setup/Sun_Java_System_Web_Server_install.log</pre> <p>注- このエラーはアップグレードに影響しません。</p>
6559735	<p>サンプルアプリケーションのマニュアルで、プロパティファイルのクラスパスに jar ファイルを追加することを説明する必要がある。</p> <pre>install-dir/samples/java/webapps/security/jdbcrealm/docs/index.html</pre> <p>の「Compiling and Assembling the Application」の節で、jdbcrealm.build.properties ファイルのクラスパスサフィックスに JDBC ドライバ jar ファイルを追加することを説明する必要があります。</p>
6413058	<p>server.xml が、検索を変換して組み込むための全部のファイルパターンを格納しない。</p> <p>スキーマは、このバージョンの Web Server に含まれる管理コンソールと検索管理ツールの両方が許可する全部のファイルパターンを格納しません。また、これは、以前のバージョンの Web Server からの移行を必要とする可能性のある全部のファイルパターンを表現する手段も持ちません。</p>

6632936	<p>Red Hat Linux Enterprise Linux 5 で、検索機能が正常に機能しない。</p> <p>Red Hat Enterprise Linux マシンに <code>compat-libstdc++</code> ライブラリがインストールされている場合、インストールされている <code>rpm</code> を削除し、<code>compat-libstdc++-296-2.96-132.7.2.i386.rpm</code> をダウンロードしてインストールする必要があります。</p> <p>x86 32 ビットおよび 64 ビットの場合 は、<code>compat-libstdc++-296-2.96-132.7.2.i386.rpm</code> をダウンロードしてインストールします。</p> <p>注 - 信頼できない場所から <code>rpm</code> をダウンロードおよびインストールしないでください。セキュリティの脆弱性を招く場合があります。</p>
6611067	<p>ファイルシステム SELinux のセキュリティが有効な場合、Red Hat Enterprise Linux インスタンスの開始に失敗する。</p> <p>新しい Linux ディストリビューションには、SELinux プロジェクトから有効な新しいカーネルセキュリティの拡張機能があります。これらの拡張機能を使用すると、システムセキュリティをより詳細に制御できます。ただし、SELinux では共有ライブラリのロードなどのデフォルトシステムの動作の一部も変更されているため、他社のプログラムにとって問題となる可能性があります。Web Server 管理サーバーまたはインスタンスの開始時に、「Cannot restore segment prot after reloc: Permission denied」というメッセージを表示した場合は、システムで SELinux が有効であることを表します。</p> <p>回避方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 次のコマンドを入力して、Web Server でロードされたライブラリのデフォルトセキュリティコンテキストを変更します。 <code>chcon -t texrel_shlib_t \$WS_DIR/lib/*.so</code> 2. <code>/etc/sysconfig/selinux</code> ファイルに次の行を追加して、SELinux を無効化します。 <code>SELINUX=disabled</code>
6602075	<p>Web Server で Sun crypto 1000 を使用するには、Solaris 10 パッチ 125465-02 (SPARC) および 125466-02 (x86) が必要である。</p>
6432870	<p>統計情報が有効化された要素が <code>server.xml</code> ファイル内で false に設定されたときに、サブレットコンテナはその統計情報を収集する。</p>

6567124	<p>Web Server 7.0 で実行している JSF Web アプリケーションを Web Server 7.0 Update 1 で実行すると中断する場合があります。</p> <p>Web Server 7.0 Update 1 には JavaServer Faces 1.2 テクノロジーが付属しています。すべての JavaServer Faces Web アプリケーションは、何の変更を加えなくても Web Server 7.0 Update 1 と連動するはずですが、JavaServer Faces 1.2 には互換性にいくつかの既知の問題があり、それらの非互換性に対処するためにアプリケーションに変更を加えることが必要になる場合もあります。この非互換性については、次の JavaServer Faces リリースノートで説明されています。 https://javaserverfaces.dev.java.net/rlnotes/1.2_04/issues.html</p> <p>Java ES 5 Portal Server ユーザーは、Java ES 5 Update 1 がリリースされるまで Web Server 7.0 Update 1 へのアップグレードを延期することをお勧めします。</p>
6549619	<p>Windows 2003 で、CLI からコマンドを実行すると、メッセージが正しくエンコードされない。</p>
6630841	<p>FastCGI ハンドラの新規ロールが、常に「英語」名で作成される。</p>
6632818	<p>CGI 設定ページにローカライズされていない文字列が表示される。</p>
6628910	<p>ローカリゼーションロケールの CLI インストーラ「Enter your option」が英語である。</p>
6484181	<p>Portal Server は、Web Server 7.0 64 ビットの起動時の JVM スタックサイズを 128K に設定するが、これは小さすぎる。</p> <p>Web Server 7.0 がすでに 64 ビットモードで設定された状態で Portal Server のインストールを開始した場合、Portal Server の構成ではスタックサイズは 128K に設定されません。これに対し、Portal Server と Web Server がどちらもすでに 32 ビットモードでインストールおよび設定されている場合に 64 ビットモードに切り替えるには、「回避方法」の節で説明する一連の手順を手動で実行する必要があります。</p>
6487041	<p>Java ES Web Server インストールでは schemagen/xjc/wsgen/wsimport スクリプトが存在しない。</p> <p>schemagen/xjc/wsgen/wsimport スクリプトがある場所は、Web Server の Java ES インストール版とスタンドアロンインストール版ではそれぞれ異なります。</p>
6550622	<p>Java ES 5 ソフトウェアを Java ES 5 Update 1 にアップグレードするときに、Portal Server をアップグレードせずに Web Server のみをアップグレードした場合、Portal Server サンプルが JSF 例外で失敗する。</p> <p>詳細は、15 ページの「互換性の問題」を参照してください。</p>
6643821	<p>SMF コマンドを実行すると、startserv および stopserv スクリプトから Java ES 環境が削除される (Solaris 10 のみ)。</p>
6549580	<p>Windows で実行中の Web Server にサービスに関する説明が含まれておらず、Java ES Update 1 パッチの適用後も説明が更新されない。</p>
6641175	<p>POST を使って 2G バイトを超えるデータをサーバーにストリーミングすると、問題が発生する。request.getInputStream().read() が -1 を返す</p>

6576542	WS7.0 に付属する、セッションレプリケーション機能を試すためのサンプルを使用できない
6600183	本文を FastCGI Perl に送信後に Transfer-encoding ヘッダーが送信される。
6613414	iWS7.0U1 - Page-encoding が大文字と小文字の区別 (たとえば utf-8 と UTF-8 の区別) をしない
6613865	Cookie の符号化/復号化のサブレットコンテナ実装が SJSWS6.1 以降から変更された
6641175	POST を使って 2G バイトを超えるデータをサーバーにストリーミングすると、問題が発生する。 request.getInputStream().read() が -1 を返す
6641231	2M バイトを超えるファイルのアップロードが Java Web コンテナに制限される。
6658609	web 7.0 u2 の JDBC リソース設定の待ち時間およびアイドルタイムアウトの最大値に -1 を指定できない
6660297	RDB を再起動すると web70 の JDBC リソースプールが予期どおりに動作しない。
6671260	標準エラー出力メッセージを FastCGI からエラーログにリダイレクトできない。 FastCGI から標準エラー出力に送信されるデータは、エラーログに記録されません。
6671957	ファイル圧縮機能のマニュアルがない (SJSWS7.0)
6671992	Web サーバーマニュアルで、フィルタの適用範囲と内容についてより具体的に記述する必要がある
6680376	特定の htaccess 構成でサーバーがループに陥る
6681681	/context-root (コンテキストのルート) と指定して Web アプリケーションの開始ファイルリストをアクセスすると、フィルタが 2 回適用される 開始ファイルを /context-root としてアクセスすると、現在のフィルタが 2 回適用されます。
6708333	web 7.0 u2 patch 125437-13 は前提条件として nss patch 3.11.8 以降が必要であることをドキュメント化すべきである
6697002	pull-config を実行すると、 config/ ディレクトリ内のバイナリファイルが、トークン化が原因で文字化けする (SJSWS7.0u2)
6701520	インストール中にユーザーが特定の umask 設定をしている場合、インスタンスが起動しない
6710993	es 、 fr - OLH がスローされた例外を表示しない

6641109	<p>NFS マウントされた docroot ディレクトリを使って設定された Web Server がクラッシュする</p> <p>NFS を使用していて <code>MediumFileSizeLimit>0</code> の場合に NFS ファイルが削除または置換されると、Web Server がクラッシュします。したがって、ドキュメントルートが NFS 上にマウントされている場合は、<code>MediumFileSizeLimit>0</code> を使用しないようにしてください。</p> <p>回避方法:</p> <p>NFS クライアントのように、Web Server のドキュメントが NFS マウント上に存在している場合には、<code>nsfc.conf</code> 内で <code>MediumFileSizeLimit</code> を 0 に設定します。</p>
---------	--

7.0 Update 2 において解決済みの問題

次の表に、Sun Java System Web Server 7.0 Update 2 で解決済みの問題の一覧を示します。

問題 ID	説明
6467621	「Sun Software PKCS#11 softtoken」使用時にサーバーへの要求が失敗する。
6564797	接続キュー、キーブアライブサブシステム、およびファイルキャッシュのサイズ変更は、サーバーが自動的に行うべきである。
6493271	<p>Web Server 7.0 における Java ガベージコレクタのアクティビティーが、Web Server 6.1 の場合と比較して高い。</p> <p>Web Server 7.0 のサーブレットコンテナは、多数の Java オブジェクトを作成します。</p>
6497803	<p>部分要求と welcome ファイルによって形成された要求 URI にサーブレットがマップされた場合、その動作が正しくない。</p> <p>Web コンテナは、有効な部分要求を受け取ると、配備記述子内に定義された welcome ファイルリストを調べる必要があります。 welcome ファイルリストとは、先頭や末尾に / が付いていない部分 URL の、順序付けされたリストのことです。 Web Server は、各 welcome ファイルを配備記述子内で指定された順番で部分要求の末尾に追加し、静的リソースまたは WAR ファイル内のサーブレットがその要求 URI にマップされているかどうかをチェックする必要があります。 Web コンテナは、WAR 内で最初に一致したリソースに、その要求を送信する必要があります。</p>
6316881	<p><code>req.getHeader()</code> でヘッダー内の複数バイト文字を取得できない。</p> <p><code>request.getHeader()</code> の呼び出し時に、文字が正しく解析されません。</p>
6554326	ハードコードされたメッセージ " ADMIN 3594: Configuration changes require a server restart " がローカライズされていない。

6565615	<p>日本語ロケールのオンラインヘルプで、「認証データベースの編集 (Editing Authentication Databases)」の PAM に関する説明で Directory Server の名前が誤って記述されている。</p> <p>正しい説明は次のようになります。「認証データベースの編集」 PAM -- PAM は Sun Java System Web Server 7.0 によってサポートされる新しい認証データベースです。</p>
6563951	<p>先頭にスラッシュが付いた検索コレクションサブディレクトリが原因で、紛らわしいエラーが発生する。</p> <p>検索コレクションを作成し、先頭にスラッシュが付いたドキュメントルートサブディレクトリを設定しようとすると、先頭にスラッシュが必要であることを誤って通知するエラーメッセージが表示されます。</p>
6571208	<p>ディレクトリ一覧表示タイプに一貫性のない表現がある。</p> <p>「インデックス作成が「なし」のときに使用するエラー応答ファイル」という一文を、「一覧表示が「なし」のときに使用するエラー応答ファイル (Error response file to use when listing is None)」に変更する必要があります。</p>
6549584	<p>国名一覧の中で「Other」という単語が翻訳されていない。</p>
6556225	<p>「ドキュメントの追加」ウィンドウで、サブディレクトリの「含める」チェックボックスが翻訳されていない。</p>
6565615	<p>日本語ヘルプ: 「認証データベースの編集 (Editing Authentication Databases)」の PAM に関する説明が誤っている。</p>
6628918	<p>日本語の管理 GUI メッセージの翻訳に問題がある。</p>
6628917	<p>GUI インストーラ OLH の翻訳に問題がある。</p>
6604075	<p>Java ES で、Web Server 7.0 起動時に Access Manager で null ポインタ例外が表示される。</p>
6479062	<p>Solaris SPARC、Linux、および HP-UX プラットフォームで HTTP リスナープロトコルファミリを nca に設定すると、Web Server が起動しない。</p> <p>EditHTTPListener ウィザードで Protocol-Family プロパティを nca に設定すると、Web Server インスタンスは再起動しません。</p>
6464953	<p>set-authdb-prop CLI を使用して digestauthstate プロパティを設定すると、値の検証が行われず、このプロパティにとって無意味な値が許可されてしまう。</p>
6504050	<p>管理コンソールのすべてのウィザードの「結果」ページで、位置合わせを適切に行うべきである。</p>
6473376	<p>デフォルトの server.xml に <stack-size> 要素を含めるべきである。</p>
6367751	<p>create-instance コマンドがリモートノード上で断続的に失敗し、HTTP 400 エラーがログに記録される。</p>
6547264	<p>あるリモートノードの起動直後に create-instance コマンドを実行すると、そのリモートノード上でそのコマンドが失敗する。</p>

6468132	ニックネームにコロンの含まれる証明書は、 list-cert コマンドを実行しても表示されない。
6437577	<pkcs11> 要素は、子要素が存在しなくても server.xml から削除されない。
6473589	トークン PIN を設定すると、<pkcs11/> が server.xml に追加される。
6534202	管理コンソール経由で WebDAV コレクションプロパティを編集できない。 同じ構成が複数のノードに配備されている場合には、共用の場所として lockdb パスをすべてのノードで同じパスにマウントする必要があります。また、管理コンソールから lockdb 内のロックをリストしたり失効させたりするには、この同じパスに対して管理サーバーを書き込み可能にしてください。
6554691	add-webapp コマンドに JSP プリコンパイルオプションを指定して実行すると、コマンドは以前にプリコンパイルした JSP ファイルを削除しない。
6556820	管理コンソールまたは管理 CLI は、管理サーバーへの CA 証明書の追加をサポートしていない。
6489269	引用符で囲まれたパスを含む「 external 」式関数が、動作しない。
6432375	HP-UX 上で、一部の OID 値に対して SNMP が失敗する。
6483212	HP-UX 11.11 上で、最大ヒープサイズが 2048M バイト以上である場合に Web Server の起動が失敗する。
6474011	basic-search.html の説明が不明瞭である。
4988156	スタンドアロン製品を既存の Java ES インストール上にインストールすること、およびその逆がサポートされていない。
6610103	Windows で Java を無効化したあとに、構成を配備して起動することができない
6856484	接続キュー、キーブアライブサブシステム、およびファイルキャッシュのサイズ変更は、サーバーが自動的に行うべきである。

7.0 Update 1 において解決済みの問題

次の表に、Sun Java System Web Server 7.0 Update 1 で解決済みの問題の一覧を示します。

バグ ID	説明
6390112	Java LDAP 接続プールの相互作用の問題 - 初期接続がタイムアウトしない。 server.xml ファイル内で JVM オプションを使って Java LDAP 接続プールを指定し、このプールを Web Server 起動時に外部 JNDI リソースを使って参照すると、プールされた LDAP 接続が作成されます。この接続があると、プールは常に ビジー として指定され、この接続の有効期限が切れることはありません。

バグ ID	説明
6472223	「 mail-resource 」サブ要素の値がメールセッションオブジェクトに設定されない。
6487083	NSAPIRequest.setupRequestFields が低速である。 <code>com.sun.webserver.connector.nsapi.NSAPIRequest.setupRequestFields</code> が低速です。その主な原因は、Cookie ヘッダー解析時に、文字列からバイトおよびバイトから文字列への変換が過剰にあるためです。
6501785	サーブレットコンテナが、 RequestDispatcher インクルードの処理時にアクセラレータキャッシュを使用しない。
6500647	Windows 上で JSP の動的再読み込みを行うと、不正な出力が生成される。
6433752	ssl-check が NSAPI ベースのプラグインと連携動作しない。 <code>"PathCheck fn="ssl-check" secret-keysize=128 bong file="xxxxx.yyy.html"</code> 静的ファイルの要求に対し、クライアントの <code>secret-keysize</code> がサーバーによって指定されたサイズよりも小さく、かつ <code>bong</code> ファイルが存在しているならば、その <code>bong</code> ファイルは応答として送り返されます。ところが、動的コンテンツ (JSP ファイルなど) が要求された場合には、 <code>bong</code> ファイルではなく、実際に要求されたオブジェクト (たとえば、JSP ファイル) が返されます。
6421617	サーバーにより解析される HTML (ParseHTML) と「 restricted by group 」オプションを含む .htaccess で問題が発生する。 <code>shtml</code> インクルードエントリを含み、「 restricted by group 」オプションが有効化された .htaccess 経由で認証されるように設定された HTML ファイルを解析すると、認証が成功します。グループユーザーが認証されても、結果ページは <code>shtml</code> インクルードエントリを取得しません。ただしこれは、「 restricted by user 」オプションを含む .htaccess ファイル内のユーザーとは正常に連携動作します。
6489913	SSL のセッションキャッシュを無効にできない。 セッションキャッシュはデフォルトで有効になっています。セッションキャッシュが無効になった状態で HTTPs プロトコル経由で URL にアクセスすると、URL の処理は完了せず、サーバーログには、 <code>session-cache</code> なしでは SSL を設定できないことを示すエラーメッセージが表示されます。
6302983	サンプルが「 Sun Java System 」ではなく「 Sun ONE 」を参照している。 <code>Web Server 7.0</code> に同梱されているサーブレットサンプル <code>LocaleCharsetServlet.java</code> は、「 Sun Java System 」ではなく「 SunONE 」を参照しています。
6495588	sampleapps/java/webapps/simple のドキュメントは無効である。 単純なサンプルアプリケーションのドキュメントに、不正なパス名が記載されています。パスは <code>install-dir/samples/java/webapps/simple/src</code> ではなく、 <code>install-dir/plugins/java/samples/webapps/simple/src</code> にしてください。
6347905	FastCGI を設定するための CLI サポートがない。 obj.conf または magnus.conf ファイルを手動で編集して、 FastCGI を設定する必要がある。

バグID	説明
6504587	FastCGI にメモリーリークが見つかった。
6479045	管理コンソールのオンラインヘルプを更新する必要がある。 オンラインヘルプは、次の理由のために更新する必要があります。 1. コンテキストベースのヘルプを提供すべきである。 2. すべての画面について、対応するヘルプページを用意する必要がある。 3. GUI の変更をヘルプページに反映させる必要がある。 4. GUI とオンラインヘルプとの間で、用語の使用法に一貫性がない。 5. 文法上の間違いを修正する。 6. いくつかのトピックについて詳しく説明する。
6482764	オンラインヘルプと管理コンソールとの間に不一致がある。
6498477	トークン設定ページにヘルプファイルが存在しない。 「共通操作」>「構成を編集」>「証明書」>「PKCS11 トークン」の画面にヘルプファイルがありません。
6479062	HTTP リスナーファミリを動的に再設定できない。プロトコルファミリを nca に設定すると、インスタンスが起動しない。
6482536	<listen-queue-size> の上限が 65535 に設定されているが、これでは小さすぎる。<listen-queue-size> の上限を引き上げる必要がある。
6500715	新しい cgi ディレクトリの作成時に不正な ObjectType fn="force_type" が object.conf に追加される。 新しい cgi ディレクトリの作成時に、不正なオブジェクトタイプ force_type が obj.conf ファイルに追加されます。
6479247	Windows 上で、配備後にインスタンスを再起動すると、トークンパスワードの入力ダイアログボックスが表示される。この動作はほかのプラットフォームでは見られない。
6425144	Windows の場合、クラスパスにセミコロン (;) が含まれていると、 wadm がクラスパスを正しく更新しない tcl 内のセミコロンはコマンドターミネータとして解釈され、単一行中の複数のコマンドを分類するために使用されます。 Windows では、セミコロンはパス区切り文字として使用されます。
6292582	「 iwsFractionSysMemUsage 」の SNMP 管理情報ベース (MIB) が正しい結果を表示しない SNMP マネージャーユーティリティがクエリーを発行したときに、 iws.mib の一部である、 SNMP MIB の「システムメモリー中のプロセスメモリーの一部」が間違った結果を出力します。
6471744	設定値を指定せずに list-tokens コマンドを実行すると、不正なエラーメッセージが表示される。

バグID	説明
6471754	認証データベース値を指定せずに list-authdb-userprops コマンドを実行すると、不正なエラーメッセージが表示される。
6472210	無効な http-listener 値を指定して get-ssl-prop コマンドを実行した場合、エラーメッセージが表示されない。
6476111	管理コンソールを使って MIME タイプを編集できない。
6478601	存在しないインスタンスを停止させると、不適切なメッセージが表示される。 存在しないインスタンスを停止しようとする、エラーメッセージ「サーバーインスタンスは正常に停止しました。」が表示されます。
6480523	wadm によって、負のポート番号を含む設定が許可される。
6489765	無効な key-size 値を指定して create-cert-request コマンドを実行した場合、不正なエラーメッセージが表示される。
6489777	delete-group コマンドで無効なグループ値を指定すると、不正なエラーメッセージが表示される。
6489779	無効な group-ID 値を指定して list-group-members コマンドを実行した場合、エラーメッセージが表示されない。
6490728	set-reverse-proxy-prop コマンドを使って rewrite-location プロパティを設定できない。 -rewrite-location プロパティを false に設定することはできません。-rewrite-location に指定された値は検証されません。たとえば、i-rewrite-location オプションに = 記号を指定すると、obj.conf ファイルが破壊され、パーサーエラーが発生します。
6492315	set-token-prop コマンドでトークン PIN を指定していなくても、 server.xml ファイル内に間違ったパスワードが設定される。
6492469	LDAP ユーザー作成の失敗時に不正なエラーメッセージが表示される。
6494353	インスタンスの削除中に無効なノード名を指定すると、不正なエラーメッセージが表示される。
6494950	register-node コマンドは、シェルモードでのみ、非 SSL ポートで正常に実行される。 シェルモードでは、-no-ssl オプション付きで register-node コマンドを入力すると、ノードが正常に登録されます。なぜなら、コマンドが間違っていて SSL モードで実行されるからです。
6405018	シェルモードでエコーが有効なときに、 get-jvm-prop コマンドによってこのコマンドが出力されない。
6499507	list-locks および expire-lock コマンドの実行時に不正なエラーメッセージが表示される。

バグ ID	説明
6499510	設定名を指定せずに list-instances 、 list-crls 、 list-tokens 、および list-certs コマンドを実行すると、「 null 」メッセージが表示される。
6499512	list-url-redirects コマンドのエラーメッセージがローカライズされていない。
6500119	ある既存の証明書を削除しようとしているときに無効な設定名を指定した場合、 wadm によってトークン PIN の入力求められる。
6500146	CLI を使用して HTTP リスナーを作成するときに、名前として null 値を持つリスナーが create-http-listener コマンドによって作成される。
6500150	list-dav-collections コマンドの実行時に仮想サーバーを指定しなかった場合、不正なエラーメッセージが表示される。
6500151	list-users 、 list-org-units 、 list-groups 、および list-group-members コマンドの実行時に認証データベースを指定しなかった場合、不正なエラーメッセージが表示される。
6500152	list-uri-patterns コマンドの実行時に仮想サーバーを指定しなかった場合、不正なエラーメッセージが表示される。
6500154	list-userprops CLI で不正なメッセージが発生する。 list-jdbc-resource-userprops 、 list-soap-auth-provider-userprops 、 list-auth-realm-userprops 、 list-e コマンドの実行時に、 JNDI 名を指定しなかったか無効な JNDI 名を指定した場合、不正なエラーメッセージが表示される。
6503350	無効な wadm コマンドを入力したときに表示されるエラーメッセージが誤解を招く恐れがある。 無効なコマンドを入力すると、エラーメッセージ「無効なコマンド <コマンド名>。有効なコマンドのリストを表示するには、「 help 」コマンドを使用してください。」が表示されます。 help のマニュアルページには、有効なコマンドのリストは含まれていません。したがって、このエラーメッセージは誤解を招く恐れがあります。
6503944	LDAP 認証データベースに対する create-user コマンドの使用法があいまいである。
6504095	set-cert-trust-prop コマンドによって不正なプロパティが受諾され、適切なエラーメッセージが表示されない。
6443845	指定されたトークンのパスワードの長さや機構のサポートが、管理サーバーによって検証されない。
6449506	既存の証明書と同じサーバー名を持つ証明書を、同じニックネームで作成できない。
6461553	「仮想サーバーの Web アプリケーション」 ページのタイトルのヘルプが正しくない。

バグ ID	説明
6473518	インスタンス起動時にトークン PIN を入力するプロンプトは、設定が配備されていない場合には表示されないようにすべきである。
6476095	ドキュメントディレクトリおよび CGI レコードを編集するオプションが、管理コンソールに用意されていない。
6476736	仮想サーバーレベルで MIME マッピングを追加および編集するためのタブを、管理コンソールに用意すべきである。
6478090	「ノード」->「管理サーバーを選択」->「証明書」->「トークンパスワード管理」ページの「現在のパスワード」フィールドは、管理者のトークンパスワードが設定されていない場合は無効化すべきである。
6490705	管理コンソールを使って URI パターンに固有の設定を行えない。
6496545	管理 CLI 経由でカスタム認証データベースユーザープロパティーを作成すると、管理コンソールに無効なプロパティーが表示される。
6502303	管理コンソールの「移行」ウィザードで「完了」ボタンを複数回クリックすると、複数の設定が作成される。
6504495	管理コンソールには 508 コンプライアンスの問題がある。
6504951	「共通操作」->「仮想サーバーを編集」->「 WebDAV 」->「新規」ページのユーザー選択プロセスで、検証を行う必要がある。
6360666	インストールされた CRL は、意味のある名前を持つべきである。
6364821	管理 CLI は、 URI 、 URI プレフィックス、 URI ワイルドカードパターン、および URI 正規表現を、 URI 空間で動作するすべてのコマンドに対してサポートすべきである。
6366956	スケジュールイベントの検索機能が、管理コンソールから正しく機能しない。
6378612	64 ビットのインスタンスが 32 ビットのリモートノード上で起動しない。
6423391	DER 形式以外のデータを含むサーバー証明書をインストールするときに、不正なエラーメッセージが表示される。
6439132	「証明書インストール」ウィザードの例外が不明瞭である。
6468676	「 Java ホーム」フィールドの検証機能が存在しない。無効なデータが受諾されてしまう。
6474668	「 HTTP リスナー」フィールドに空白文字を含む名前が受諾される。これは無効である。
6476111	管理コンソールまたは CLI のいずれを使っても MIME タイプを編集できない。

バグ ID	説明
6483365	<p>GUI と CLI で、移行用の Web Server 7.0 のサーバールートが受諾されてしまう</p> <p>管理コンソールと CLI では移行時に、Web Server 6.1 や Web Server 6.0 のパスの代わりに Web Server 7.0 のパスが受諾されます。Web Server 7.0 のパスは、migrate-server コマンドの server-root プロパティの有効なパスではありません。</p>
6492176	<p>管理コンソールを使って新しい設定を作成および保存するときに、デフォルト値や null 値が obj.conf 内に格納される。</p> <p>管理サーバーは、管理コンソールから渡された値を、何の検証も行わずに obj.conf ファイル内に格納します。</p>
6497004	<p>set-authdb-prop 実行時に CLI 上に SaveConfigException が表示される。</p> <p>set-authdb-prop コマンドを使用して存在しないファイルパスを keyfile authdb の path プロパティに指定した場合、File does not exist というメッセージの代わりに、SaveConfigException が発生します。</p> <p>管理サーバーのエラーログを参照してください。</p>
6497143	<p>stop-admin コマンドの実行時に、管理サーバーが実際に実行中であるのに「管理サーバーは停止中です」というメッセージが表示される場合がある。</p>
6498411	<p>get-cert-prop では、<displayproperties> 要素内に記載されたプロパティだけが表示されない。</p>
6500715	<p>cgi-bin ディレクトリ内のファイルにアクセスしようとすると、サーバーエラーが発生する。</p>
6364702	<p>wadm コマンドの成功時または失敗時に、有効なエラーコード [0-125] が返されない。</p>
6370032	<p>RequestDispatcher インクルード呼び出しを使用すると、セッションフェイルオーバーが実行されない。</p> <p>1つのクラスタ上に2つの Web アプリケーションを配備し、一方のアプリケーションが他方のアプリケーションを RequestDispatcher() インクルード呼び出しを使用して呼び出すようにした場合、RequestDispatcher() の invoke() メソッドの実行中に持続性バルブが呼び出されないため、セッションレプリケーションが実行されません。</p>
6381950	<p>BaseCache に不正な負荷係数が設定される。</p> <p>セッションレプリケーションは3つ以上の Web アプリケーションをサポートしません。</p>
6381954	<p>RequestDispatcher に関連する複数の Web アプリケーションでは、不正なシーケンスが原因でセッションレプリケーションの実行が失敗する。</p>

バグ ID	説明
6383313	SR-instanceId Cookie に不正なパスが設定される。 SR-instanceId Cookie には、サーブレットのパスではなく Web アプリケーションのパスが設定されるべきです。
6450360	create-authdb コマンドで、認証データベース (authdb) の作成時に URL が検証されない。 create-authdb コマンドを実行すると、間違った URL を持つ認証データベースが正常に作成される。
6450800	get-error-log および get-access-log コマンドで、雑然とした不適切なメッセージが表示される。
6459106	wadm deploy によるクラスタ設定の配備が失敗する。 手動またはその他の手段によってインスタンスの設定ファイルに何らかの変更が加えられた場合、 deploy-config コマンドによって、インスタンスが変更されたことを知らせるエラーメッセージが表示されます。
6462891	Web アプリケーションをユーザー固有の場所に配備するための管理コンソールが存在しない。
6439577	wadm コマンドプロンプトから間違ったトークン PIN を使ってインスタンスが起動されたときに、トークンパスワードが求められない。
6465470	「グループ設定」ページのテキストが間違っている。 テキストは「このページから、選択した認証データベース内のユーザーグループを追加/削除します。」ではなく、「このページから、選択した認証データベース内のユーザーグループを追加/削除できます。」とすべきです。
6465480	JVM プロファイラを削除するときのメッセージが不正である。 メッセージは「プロファイラが正常に保存されました」ではなく「プロファイラが正常に削除されました」とすべきです。
6466409	Web アプリケーションの追加時に間違ったパスを指定すると、不正なエラーメッセージが表示される。
6467164	管理コンソールウィザードのウィンドウタイトルに一貫性がない。
6467785	無効な Directory Server 設定値を入力すると、管理コンソールに不正なエラーメッセージが表示される。
6470585	ドキュメントディレクトリの URI プレフィックスが「\」を含まない値を受諾してしまう。
6471737	list-instances コマンドで、設定値を指定しなくてもインスタンスが一覧表示される。
6472385	CLI 経由で行なったトークンパスワードの変更が GUI に反映されない。ブラウザを再描画する必要がある。

バグID	説明
6467665	migrate-jks-keycert コマンドを使って無効なファイルパスを持つ証明書を移行しようとすると、 keystore-password と key-password の入力を求められる。
6469104	create-selfsigned-cert コマンドでサーバー証明書を作成するときに、不適切な有効期間を定義できてしまう。
6469109	delete-cert コマンドでは、トークン「 Sun Software PKCS#11 softtoken 」を使って作成された証明書が削除されない。
6471649	list-events コマンドの出力が正しく位置合わせされていない。
6474584	dayofweek が「*」をオプションとして受け取らない。 たとえば、ACL を次のように設定します。 <pre>acl "uri="/"; deny (all) dayofweek="*"; allow (all) dayofweek="Sat,Sun";</pre> このプログラムでは、土曜日と日曜日を除いたすべての曜日のアクセスを制限しようとしています。このプログラムは正しく機能しません。なぜなら、月曜日はこの ACL に正常にアクセスできるからです。
6477840	クラスパスのプレフィックス、クラスパスのサフィックス、およびネイティブライブラリパスのプレフィックスを入力するための広いテキスト領域を、管理コンソールに用意すべきである。
6478165	「 CRL をインストール」 ページでは、サーバー上の CRL ファイルへの不正なファイルパスが入力されたあとのユーザビリティに問題がある。
6478229	「インスタンス」 -> 「新規」 ページのタイトルが正しくない。
6478292	「共通操作」 -> 「構成を選択」 -> 「仮想サーバーの選択」 -> 「仮想サーバーを編集」 -> 「 WebDAV 」 -> 「新規」 ページに「ユーザー」の入力フィールドが表示されるのは、認証データベースが PAM の場合だけにすべきである。
6478303	管理コンソールでは、 ACL のユーザー情報またはグループ情報を入力しなくても ACE を作成できる。認証データベースが PAM かどうかのチェックが行われない。
6478612	「要求ヘッダータイムアウト」 テキストフィールドに受諾される値の範囲に関するインラインヘルプが間違っている。
6500228	ある MIME タイプの重複するレコードを作成すると、管理コンソールに例外が表示される。
6501807	管理コンソールを使用して新しい Web アプリケーションを配備すると、既存のすべての Web アプリケーションのセッションが終了する。
6504748	インスタンス削除オプションを使うと、アンインストーラは、シンボリックリンクを削除する代わりにシンボリックリンクからファイルを削除する。
6505994	URI パターンが空のままプロパティを作成するとクラッシュが検出される

バグ ID	説明
6510486	<p>htaccess 規則がメモリー内で破壊される可能性がある。</p> <p>単一の .htaccess ファイルに6つ以上の許可規則または拒否規則が含まれている場合、いくつかの規則がメモリー内で破壊される可能性があります。この問題が発生すると、いくつかの規則の処理が無視される可能性があります。</p>
6506936	<p>インスタンスの webapps ディレクトリ内で JSP またはその他のファイルを変更すると、deploy-config が失敗する。</p> <p>管理コンソールまたは CLI から pull-config を使うと、instance-dir /config ディレクトリの中身だけが config-store に取り込まれます。Web Server 7.0 では、pull-config を使うと、中身は instance-dir/config、instance-dir/lib、および instance-dir /web-app ディレクトリに取り込まれていました。</p>
6492407	<p>フロントエンドファイルのアクセラレータキャッシュ。</p> <p>ACL および obj.conf の設定によっては、フロントエンドアクセラレータキャッシュは、NSAPI を使って以前に処理された URI に対する静的ファイル要求を処理できます。アクセラレータキャッシュはデフォルト設定で実行する必要があります。</p>
6498928	<p>0 バイトのファイルに対して、出力指令が呼び出されない。</p> <p>応答の長さが0の場合は、protocol_start_response() が呼び出されないかぎり、出力指令は呼び出されません。send-file は protocol_start_response() 関数を呼び出しません。0 バイトのファイルを送信しても、出力指令は呼び出されません。</p>
6502258	<p>出力バッファが大きいとサーバーがクラッシュする。</p> <p>出力ストリームバッファサイズが入力バッファサイズよりも大きい場合、サーバーが無効なアドレスにデータをバッファリングしようとする可能性があります。デフォルトの入力バッファサイズは、8192 バイトです。</p>
6504755	<p>デフォルトサーバーインスタンスでアクセスロギングを無効にできない。</p> <p>server.xml ファイル内では、<access-log> <enabled> 要素の値が無視されます。</p>
6505390	<p>アクセラレータキャッシュが ssl-unclean-shutdown プロパティを処理しない。</p> <p>アクセラレータキャッシュが、デフォルト設定内の AuthTrans fn="match-browser" browser="*MSIE*" 指令と正しく相互に作用しません。そのような指令が存在する場合、アクセラレータキャッシュは、使用するブラウザの種類にかかわらず、「クリーンでないシャットダウン」設定をすべての接続に適用します。</p>
6432375	<p>HP-UX 上で、一部の OID 値に対して SNMP が失敗する。</p> <p>回避方法</p> <p>HP-UX API のサポートの欠如およびその複雑さのために、ネットワークの入出力トラフィック統計情報が実装されていません。トラフィック統計情報を監視するには、HP のツールを使用してください。</p>

バグ ID	説明
6430293	管理コンソールに表示される AdminException メッセージがローカライズされていない。
6508299	英語以外のロケールで、オンラインヘルプの左パネルに、検索結果が文字化けして表示される。
6507819	ローカライズ版のオンラインヘルプのコンテンツが、英語版と一部異なっている。
6536820	Tinderbox 上で QA 回帰テストの実行時に、断続的に deploy-config が失敗する。
6486480	<code><replacement>>false</replacement></code> を指定すると、 service-nsfc-dump のエントリヒット数が 0 になる。 server.xml ファイル内で <code><replacement>>false</replacement></code> を指定すると、 service-nsfc-dump 出力のエントリヒット数が 0 と表示されます。ただし、キャッシュヒット数は正しく表示されます。

